

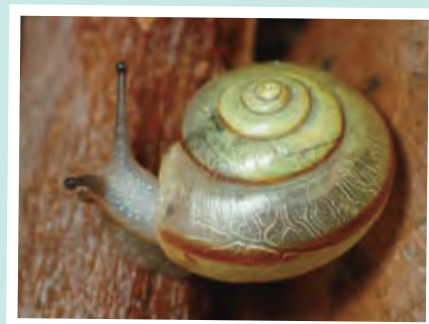
なごや生きもの一斉調査 2022

陸貝編

調査結果報告書

実施日 2022年10月8日(金)・9日(土)・10日(日)

調査場所 名古屋市内外の66地点



主催

なごや生物多様性保全活動協議会



協力

公益財団法人
名古屋市みどりの協会

監修・執筆

川瀬基弘
(鳳来寺山自然科学博物館学術委員)

目 次

1. 概要	1
1-1 目的	
1-2 実施体制	
2. 実施内容	2
2-1 調査日時	
2-2 調査地点	
2-3 参加団体	
2-4 参加者数	
2-5 一斉調査の流れ	
2-6 調査方法	
3. 調査結果と考察	7
3-1 調査対象	
3-2 全体の調査結果と考察	
3-3 調査地点別の特徴	
3-4 各種別の結果と解説	
4. 同定資料	37
5. 調査後のアンケート	42
5-1 調査に対する満足度	
5-2 参加者について	
5-3 参加者の声 ～楽しかったこと・面白かったこと～	
6. 活動アルバム	44

1. 概要



1-1 目的

なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）は、なごやに生息する生物及びその環境の継続的な調査を行い、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除など身近な自然の保全を実践することを目的として、2011（平成23）年5月15日に設立されました。2023年3月末現在、65の会員（団体会員41、個人会員23及び名古屋市）により構成されています。

なごビオでは、その活動の一環として、一年に一回、なごや生きもの一斉調査を実施しています。2022年度は陸貝（カタツムリ等）を対象として一斉調査を行いました。陸貝を調査する意義は次の3つです。

- (1) 陸貝を身近な公園等で調べることで、地元の自然環境に興味をもってもらい、自然・環境・生物に対して関心を深める機会を提供します。また、同じ場所でも、環境が異なるところに色々な種類の陸貝が生息していることを知っていただき、生物多様性を理解するきっかけを提供します。
- (2) 稀少種や外来種を含めた陸貝の分布状況が分かります。また、陸貝の種類等により多様性指数を算出し、調査地点の自然度を評価できます。
- (3) 陸貝調査は2012年にも実施しており、10年前の調査結果と比較することにより10年間の変化の状況が分かります。

1-2 実施体制

今回の一斉調査も、昨年に引き続き、学校や他都市の保全団体等にも調査に参加していただき、市外を含めた広範囲で実施しました。実施体制は以下のとおりです。また、2012年の陸貝調査に引き続き、鳳来寺山自然科学博物館学術委員の川瀬基弘氏に監修をお願いしました。

【主 催】なごや生物多様性保全活動協議会
（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）

【協 力】公益財団法人 名古屋市みどりの協会
名古屋市理科教育研究会、名古屋経済大学市邨高校、名城大学附属高校、愛知県立一宮高校、NPO法人海上の森の会、NPO法人もりの学舎自然学校、二村山豊かな里山づくりの会、公益財団法人愛知県都市整備協会、岩間造園(株)、一般財団法人公園財団、NPO法人犬山里山学研究所、名古屋産業大学長谷川ゼミ

【監 修】川瀬基弘（鳳来寺山自然科学博物館学術委員）

【専門家協力員】守谷茂樹、横井敦史



2. 実施内容



2-1 調査日時

【日程】2022年10月8日(金)・9日(土)・10日(日)を中心に前後約1か月間

【時間】10:00～12:00の2時間程度

2-2 調査地点

名古屋市内58地点、市外8地点、計66地点(表1・図1)



表1. 調査地点一覧

【なごびオ】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
1	千種	茶屋ヶ坂公園	石樽純子	10/9
2	千種	城山八幡宮	山田やえ子	10/10
3	千種	千種公園	伴知幾	10/9
4	千種	東山の森(へいわの森)	田畑恭子	10/8
5	千種	東山の森(くらしの森)	鬼頭洋子	10/8
6	千種	東山の森(ふれあいの森)	今尾由美子	10/8
7	千種	東山の森(いのちの森)	滝田久憲	10/9
8	千種	東山の森(うるおいの森)	鬼頭洋子	10/10
9	千種	名古屋大学東山キャンパス	伴知幾	10/8
10	東	木ヶ崎公園	山田祥夫	10/10
11	東	長母寺	山田祥夫	10/10
12	東	徳川園	茶原真佐子	10/12
13	北	名城公園	熊澤慶伯	10/10
14	西	庄内緑地	岩田育純	10/8
15	中	名古屋城外堀	水谷康一	10/10
16	中	久屋大通庭園フラリエ	長元楓	10/8
17	昭和	鶴舞公園	金剛和香	10/10
18	昭和	興正寺公園※講習会として実施	川瀬基弘	9/7,11
19	瑞穂	山崎川(山下橋周辺)	大矢晃	10/10
20	瑞穂	山崎川(あゆちの水)	大矢美紀	10/8
21	熱田	高座結御子神社	守谷茂樹	10/4
22	熱田	熱田神宮公園	熊澤慶伯	10/8
23	熱田	白鳥公園	柘植実	10/8
24	熱田	神宮東公園	伴知幾	10/10
25	中川	富田公園	宇野総一	10/10
26a	港	戸田川緑地(北部)	渡辺大起	10/2
26b	港	戸田川緑地(南部)	渡辺大起	10/2
27	港	荒子川公園	細江初奈	10/8
28	南	呼統公園	浅井昭枝	10/10
29	南	大江川緑地	榊原靖	10/10
30	守山	八竜緑地	細江真澄	10/8
31	守山	東谷山	山田律子	10/10
32	守山	小幡緑地(本園)	石原則義	10/9
33	守山	雨池公園	岡村穰	10/8
34	守山	竜泉寺	脇田剛	10/10
35	守山	才井戸流	岡島栄子	10/9
36	守山	東谷山フルーツパーク	松原裕隆	10/13
37	緑	大高緑地(花木園)	谷幹雄	10/9

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
38	緑	大高緑地(管理事務所周辺)	大矢芳樹	10/8
39	緑	みどりが丘公園	加藤敦子	10/8
40	緑	細根公園	宮嶋愛子	10/9
41	緑	鷲津砦公園	梅本洋子	10/9
42	名東	明德公園	久村三重子	10/9
43	名東	猪高緑地(塚ノ杵池周辺)	安井弘	10/8
44	名東	猪高緑地(すり鉢池周辺)	萩原正弥	10/10
45	名東	牧野ヶ池緑地(東部)	巾賢治	10/8
46	名東	牧野ヶ池緑地(西部)	巾賢治	10/9
47	天白	相生山緑地(オアシスの森)	近藤記巳子	10/9
48	天白	相生山緑地(南部)	近藤記巳子	10/10
49	天白	荒池緑地	石川登志子	10/10
50	天白	東山公園テニスセンター	中島直樹	10/10
51	天白	島田緑地	浅井聡司	10/8

【名古屋市理科教育研究会】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
101a	北	北陵中学校	宇佐美宏幸	10/7
101b	北	東志賀公園(北陵中学校)	宇佐美宏幸	10/14
102	守山	西城小学校	小林哲	10/15
103	緑	鳴海小学校	川野祐二	10/3
104	天白	天白溪下池公園(大坪小学校)	本多拓実	10/6

【ユース】

地点No.	市・区	調査地名	リーダー	調査日
201	千種	名古屋経済大学市邨高校	佐藤豊	10/11,14
202	中村	庄内川河川敷(名城大学附属高校)	吉川靖浩	10/10
203	一宮市	愛知県立一宮高校	原いずみ	9/17

【他都市団体】

地点No.	市	調査地名	リーダー	調査日
301	瀬戸市	海上の森	石川明博	10/4
302	長久手市	モリコロパーク	水谷央	10/10
303	豊明市	二村山	浅野守彦	10/9
304	小牧市	尾張広域緑道フレッシュパーク	馬渡康弘	10/1
305	稲沢市	サリオパーク祖父江	森川了平	10/13
306	犬山市	犬山水生生物園	近藤富士夫	10/12
307	尾張旭市	新居町寺田の里山(名古屋産業大学)	長谷川泰洋	10/4

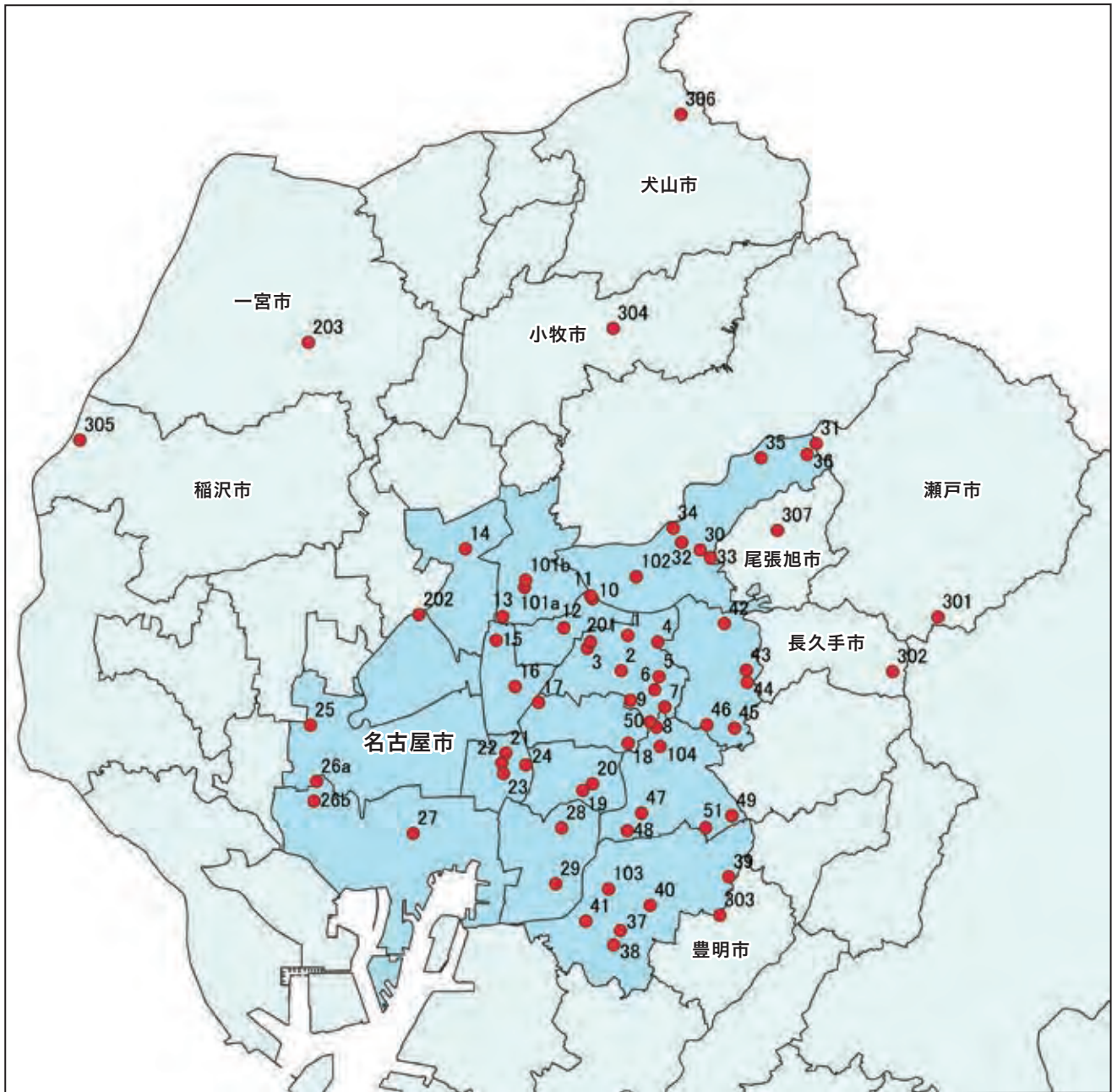


図1. 調査地点図



- 調査地点
- 市区町村境界



2-3 参加団体

なごビオ会員の他、以下の団体にも参加いただきました。

(1) 名古屋市理科教育研究会（名理会）

名古屋市理科教育研究会は名古屋市立の小中学校・幼稚園等に在籍する理科同好の職員で組織される研究会です。その生物部の先生方に参加をお願いし、児童や生徒とともに学校の校庭や学校近くの公園等で調査していただきました。

(2) 高校の生物部等（ユース）

高校の生物部等で、なごや生物多様性センターが主催するセンターまつりに参加した高校や、なごビオの助成金の交付を受けた高校などに参加をお願いし、学校の校庭や学校近くの河川敷等で調査していただきました。

(3) 他都市の保全団体

名古屋市周辺の市で、なごビオと同様に自然環境保全に取り組む団体に参加をお願いし、団体が日頃活動しているフィールドで調査していただきました。

2-4 参加者数

今回の一斉調査には延べ715人に参加していただきました。なごビオ実施地点の参加者は300人、連携した団体からの参加者は以下のとおりです。

- | | | |
|-----------|-----|------|
| (1) 名理会 | 4校 | 192人 |
| (2) ユース | 3校 | 143人 |
| (3) 他都市団体 | 7団体 | 80人 |



2-5 一斉調査の流れ

(1) 講習会

一斉調査では毎回、各調査地点のリーダー・サブリーダーなどを対象とし、調査目的や調査方法を説明するとともに、専門家（講師）が調査対象について詳しく解説する事前講習会を実施しています。今回はYouTubeでの動画視聴による事前講習（図2）に加え、フィールドでの実地演習として現地講習会（図3）を以下のとおり実施しました。

【日 時】 ① 9月 7日（水） 10:00～12:00

② 9月11日（日） 10:00～12:00

※リーダー及びサブリーダーは上記のいずれかに出席、
連携団体の代表者にも受講していただきました。

【場 所】 興正寺公園

【参加人数】 のべ95人

【講 師】 川瀬基弘（鳳来寺山自然科学博物館学術委員）・横井敦史

【講習の内容】 目視による調査のポイント、落葉や腐葉土からの採取方法、陸貝の同定方法や扱い方





図2. YouTubeでの事前講習



図3. フィールドでの実地演習

(2) 調査当日

【午前】

- ・各調査地で参加者に陸貝の同定資料を配布 (P.37)。
- ・調査リーダーや連携団体の代表者が、調査の目的や方法などについて説明した後、調査を開始 (図4)。
- ・調査後、参加者全員で同定資料に基づいて、採集した陸貝の同定を実施 (図5)。

【午後】

- ・現地で採集した陸貝の個体を、リーダー・サブリーダーがなごや生物多様性センターに持参。
- ・連携団体が採集した陸貝は、代表者がなごや生物多様性センターに持参、または事務局が後日に回収。



図4. 採集の様子



図5. 同定の様子

(3) 再同定

採集した陸貝は、なごや生物多様性センターにおいて、川瀬基弘氏、守谷茂樹氏、横井敦史氏の専門家の方々により再同定を実施し、種を確定しました。

尚、高座結御子神社及び海上の森では、採集した陸貝をその場で放す必要があったため、専門家が同行し現地で同定を行い、種を確定しました。

(4) 補足調査

リーダーによる調査に先立ち、猪高緑地 (すり鉢池周辺) では、川瀬氏ら専門家による下見調査を行いました。また、木ヶ崎公園及び長母寺では、一斉調査の後に専門家による補足調査を行いました。

2-6 調査方法

はじめに調査エリア全体を見渡し、素手による直接目視採集を実施しました。倒木、転石やコンクリートブロック、ゴミなどの人工物をひっくり返して裏側を探したり（図6）、朽ち木の表面や内部を探したり、家屋やガードレールの表面観察（図7）、さらには立ち木の葉の裏面、石組みの隙間など、陸産貝類の隠れやすい場所を調査しました。また、熊手やスコップを用いて、落葉の下に隠れる中型～大型個体の発見にも努めました。その後は湿度の高いリター層を篩（今回は洗濯ネットを代用）でソーティングし、篩から落ちたサイズの粒子をトレーに拡げて、数ミリサイズの微小陸貝をピンセット等で採集しました（図8）。必要に応じてヘッドライトやルーペも使用しました。



図6. 目視採集



図7. 陸貝の食み跡



図8. 微小貝の採集

なお、10年前の陸貝一斉調査においては、一般参加者による微小陸貝の採集精度が予測できなかったため、上記の採集方法とは別に、現地のリターを篩った場所で、無選別のリターを10L程度サンプリングして持ち帰りました。持ち帰ったリターを専門家が篩って微小陸貝を全て抽出し、種数を調べました。その結果、ほぼ全ての地点において、一般参加者が現地で篩って発見した微小陸貝の種数と、専門家が抽出した種数に大差は見られませんでした。つまり、事前リーダー講習会の結果、精度の高い調査が実施できていることが証明されたので、今回の調査ではリターの持ち帰りは省略しました（現地で篩って探すだけにとどめました）。全7頁に及ぶ初心者向けの「陸貝調査マニュアル」（図9）を作成し、事前にPDFデータを公開しました。さらには、リーダー講習会直後に作成した5分程度の動画「みんなでできる！陸貝の調査方法」をYouTube配信し、参加者が自由に見られるように工夫しました（図10）。

また、一般参加者がある程度まで絵合わせで同定できるよう、オリジナルの「同定ガイド（P.37～P.41）」を作成し、時間の許す限り、現地において簡易的な同定に取り組んでいただきました。



図9. 陸貝調査マニュアル



図10. YouTubeでの動画配信

3. 調査結果と考察



3-1 調査対象

調査の対象は、調査地に棲息する陸産貝類（ナメクジの仲間を含む）としました。生貝だけでなく死殻や破片なども全て採集しました。破片であっても可能な限り同定しました。極めてわずかですが、同定できないほどに殻が劣化していたり、細かい破片の場合は結果に反映しませんでした。また、純粋な棲息個体数を把握するのが目的ではなく、その地点の陸貝の出現傾向を把握するため、死殻であっても生貝と同等にカウントしました。従って、10年前の調査結果と同様に、今回のデータにおいては生貝と死貝の区別はしていません。

3-2 全体の調査結果と考察

今回の調査では名古屋市内から全51種、8,048個体の陸貝が発見されました。市外の調査地からは全31種、376個体が発見されました。あわせると全57種、8,424個体の陸貝が発見されたこととなります。今回の調査において、名古屋市から見つからず、周辺地域から発見された種は、ミジンヤマタニシ、ピルスブリムシオイ、ノハラノイシノシタ、ビロウドマイマイ、コハクオナジマイマイ、クチベニマイマイの6種です。このうち、ピルスブリムシオイとクチベニマイマイの2種は、もともと名古屋市からの記録がありません。

10年前の一斉調査では、全41種、7,003個体が発見されていますので、計算上では種数が41種から51種に10種増加したことになります。実際には、今回の調査で市内から、前回見つからなかったヤマタニシ（図11）、オキナワヤマタニシ、イボイボナメクジ、ニホンケシガイ、ナミギセル（図12）、ソメワケダワラ、ナガオカモノアラガイ（図13）、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラ（図14）、タカキビ、ナミヒメベッコウ、ヒラベッコウ（図15）、アジアベッコウ、コベソマイマイ（図16）、ニッポンマイマイ、カタマメマイマイ、ヤマナメクジ、ナメクジの18種が追加された一方で、10年前に見つかったミジンヤマタニシ、サツマオカチョウジガイ、タワラガイ、ノハラノイシノシタ、マルシタラ、ヒゼンキビ、ビロウドマイマイ、ヤマナメクジ類の8種が、今回は市内から発見されませんでしたので、差し引きして10種の増加となりました。



図11. ヤマタニシ (準絶滅危惧)



図12. ナミギセル (絶滅危惧IB類)



図13. ナガオカモノアラガイ (絶滅危惧IB類)



図14. ウメムラシタラ (準絶滅危惧)



図15. ヒラベッコウ (準絶滅危惧)



図16. コベソマイマイ (準絶滅危惧)

表2. 地点別調査結果一覧

団 体 区・市名	なごびお																																	
	千種									東			北		西		中		昭和		瑞穂		熱田			中川		港		南		守山		
調 査 日	10/9	10/10	10/9	10/8	10/8	10/8	10/9	10/10	10/8	10/10	10/10	10/12	10/10	10/8	10/10	10/8	10/10	9/7,11	10/10	10/8	10/4	10/8	10/8	10/10	10/10	10/2	10/2	10/8	10/10	10/10	10/8	10/8		
地点番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26a	26b	27	28	29	30			
調査地名	茶屋ヶ坂公園	城山八幡宮	千種公園	東山の森(へいわの森)	東山の森(くらしの森)	東山の森(ふれあいの森)	東山の森(いのちの森)	東山の森(うるおいの森)	名古屋大学東山キャンパス	木ヶ崎公園	長母寺	徳川園	名城公園	庄内緑地	名古屋城外堀	久屋大通庭園フリエ	鶴舞公園	興正寺公園	山崎川(山下橋周辺)	山崎川(あゆちの水)	高座結御子神社	熱田神宮公園	白鳥公園	神宮東公園	富田公園	戸田川緑地(北部)	戸田川緑地(南部)	荒子川公園	呼続公園	大江川緑地	八竜緑地			
種 名																																		
ヤマタニシ																																		
オキナワヤマタニシ※																																		
ミジンヤマタニシ																																		
ピルスブリムシオイ																																		
アズキガイ		999																				100												
ヒダリマキゴマガイ												5																						
ウスイロオカチグサ																																		
イボイボナメクジ※																																		
ニホンケシガイ														10																				
ミジンマイマイ			7													144						6	38		3	11								
ヒクギセル																						1	84											
ナミギセル																																		
ナミコギセル		32		18	3	66	1	15	3	2	4		11	1	19			144	8	170	100	5	108		10	135	31		5					
トクサオカチョウジガイ		1	19						25			23		8		1		31	143		2		51		1		111		10					
ホソオカチョウジガイ		6	17	1		3			7			4			1			2			4	3		2	1		13		1	1				
オカチョウジガイ	4	7	3	6		3	9	1	42	2	4	1	3	10	1	2		89	3	13	7	2	4			13		4	14		10			
ナタネガイ		1	1													16						1	2		4	3								
ミジンナタネガイ				1																														
ノハラノイシノシタ																																		
ソメワケダワラ※																																		
ナガオカモノアラガイ													1																					
ヒメオカモノアラガイ														2																				
カサキビ				1	1																													
ヒメカサキビ																																		
オオウエキビ		1		13												6		1			3	6											5	
ハリマキビ				1																					1									
ヒメハリマキビ																																		
キビガイ		1		8																		1	3										1	
ヒメベッコウ				1					10	2			2			2		6				1												
ヤクシマヒメベッコウ														16	3	1	3	10																
コシタカシタラ				1																														
ウメムラシタラ																																		
タカキビ※																																		
ウスイロシタラ		2		2	5	1	1	30	1			2		4	5			54			2	30		1		6	1							
ナミヒメベッコウ																																		
オオクラヒメベッコウ																																		11
ヒラベッコウ																																		
ウラジロベッコウ		2	1						18				1	2				6		6													11	
アジアベッコウ※																																		
ヒメコハク									6						3							2		5	1	3	8					12		
コハクガイ			18	1					43		1	1	2		2	8	26					100	8		2							1	1	
コベソマイマイ					8																													
ニッポンマイマイ																																		
ピロウドマイマイ																																		
オオケマイマイ															27																			
カタマメマイマイ※																																		
マメマイマイ		1			4			1							2												2							5
ヒルゲンドルフマイマイ																																		
ウスカワマイマイ					1				184	1	2																							
オナジマイマイ																																		
コハクオナジマイマイ																																		
イセノナミマイマイ	5	2		7	85	15	14	18							30			321		5		1	3	57	58	5	2					10		
クチベニマイマイ																																		
ナメクジ									14				1													2	2	3	1					
ヤマナメクジ									1																									
ナメクジ類sp.																1																		1
チャコウラナメクジ									5				2		2																			
個体数の合計	9	1055	67	61	107	88	25	65	359	7	11	39	27	51	96	180	34	680	284	194	330	187	181	71	84	183	255	8	31	18	58			
種数	2	12	8	13	7	5	4	5	13	4	4	8	10	7	12	8	3	12	6	4	14	12	7	7	10	8	10	3	5	4	10			
多様度指数	0.99	0.42	2.34	2.91	1.20	1.15	1.37	1.70	2.43	1.95	1.82	2.01	2.77	2.45	2.59	1.16	1.01	2.25	1.31	0.72	2.16	2.41	1.59	1.19	1.73	1.51	2.16	1.41	1.79	1.49	2.92			
外来種・国内移入種の種数	0	3	5	1	0	0	0	0	4	0	1	4	3	2	3	4	2	1	3	0	6	3	2	4	4	2	4	1	2	3	2			
希少種・絶滅危惧種の種数	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6		

※名古屋市初記録

10年前と比較して、多様度指数※の平均は1.95から1.76に、発見種数の平均は9.85から7.51に下がりました。10年間で植生の乾性遷移が進行し、腐葉土やリター層の乾燥化も進んでいるのが原因の一つと考えられます。また、一斉調査を実施した2022年は年初の気温低下が記録的であったり、梅雨の時期も含めた年間を通しての降水量がかなり少なく、記録的な乾燥化が続いたことも大きく影響している可能性があります。特に2022年度は愛知県全域において、前年度までに比べて陸産貝類相が劇的に悪化し、種数・個体数ともに激減した地域が多く見られたこともあり、名古屋市も例外ではないと考えます。

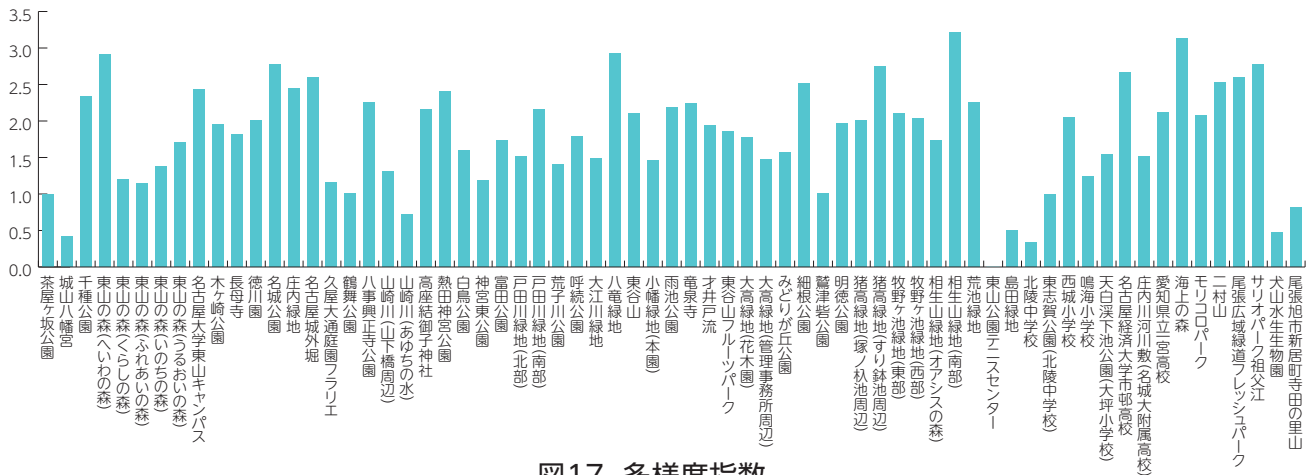


図17. 多様度指数

※多様度指数とは、生物多様性の大小を評価する数値の1つです。種数と個体数が多く、種間における個体数のバラツキが少ないほど大きい値を示します。種数が多くても、特定の種類だけ個体数が極端に多いと、多様度指数は小さくなります。

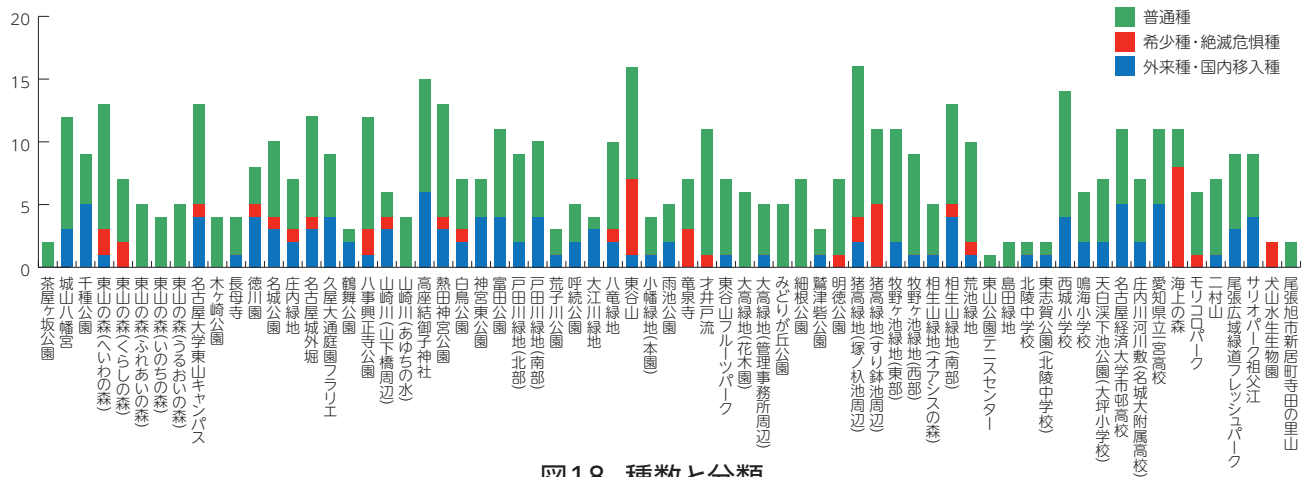


図18. 種数と分類

また、10年前は一斉調査の3日間を通して天候に恵まれましたが、2022年度は、初日の前日までまとまった雨が降り、翌日は通常よりもリター層・腐葉土層が水分を含みすぎて、篩がけが十分にできなかったことも、微小種が減少した結果に影響しているかもしれません。特に一斉調査第3日目は、調査前半まで雨が降り続く中での調査でしたので、篩がけは極めて困難でした(図19)。一方で雨が上がった直後は気温が急激に上昇し、大型陸貝が普段よりも活動的で目につきやすい状態にあったと思われます(図20)。いずれにしても微小種の篩がけが十分にできなかった場合は、リター層の枯れ葉や枯れ枝を一つずつ目視で直接探すという、代替手段も実施しました(図21)。これにより、ある程度までは微小種を見つけれられたはずですが、十分な篩がけができなかった点では、結果の悪さに少なからず影響を与えていると考えられます。



図19. 雨の中での調査



図20. 雨上がりの大型陸貝

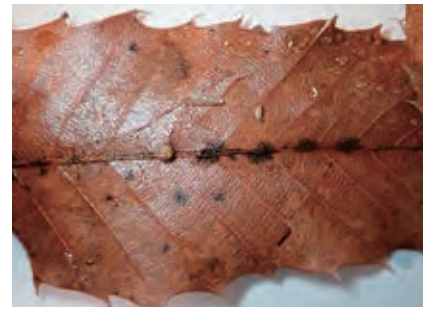


図21. 目視での微小種の確認

10年前の一斉調査に加え、その後10年間で名古屋市初記録種も増加しました。さすがに今回の調査での名古屋市初記録種の追加は期待していませんでしたが、予想外にイボイボナメクジ(図22)、タカキビ(図23)、カタマメマイマイ(図24)の3種もの在来種が新たに見つかりました。いずれも愛知県のレッドデータブック(以下「RDB」という)掲載種であり、名古屋市のRDB掲載対象にもなる重要種です。3種ともに守山区東谷山から発見されており、他の稀少種を併せれば、守山区東谷山は今回の調査において、市内で最も稀少種の種数が多い結果となりました。これらの発見は、守山区の雑木林の環境が良好であることの指標になると考えます。



図22. イボイボナメクジ



図23. タカキビ



図24. カタマメマイマイ

また、外来種も名古屋市初記録が3種も追加されました。奄美・沖縄諸島に分布する国内外来種のオキナワヤマタニシ(図25)、台湾やインド原産の外来種であるソメワケダワラ(図26)、東南アジア原産と考えられる外来種のアジアベッコウ(図27)です。国外外来種アジアベッコウは既に愛知県内でも発見されています。また、アジアベッコウと同所的に見つかった、オキナワヤマタニシが温室内で繁殖していることから、奄美・沖縄諸島の熱帯・亜熱帯系植物を運び込んだ際に、随伴した可能性が高いと考えます。ソメワケダワラについては移入経路不明ですが、既に沖縄県や九州の一部に定着していることから、国外からではなく国内の個体群が本州に移動した可能性が高いと考えています。



図25. オキナワヤマタニシ



図26. ソメワケダワラ

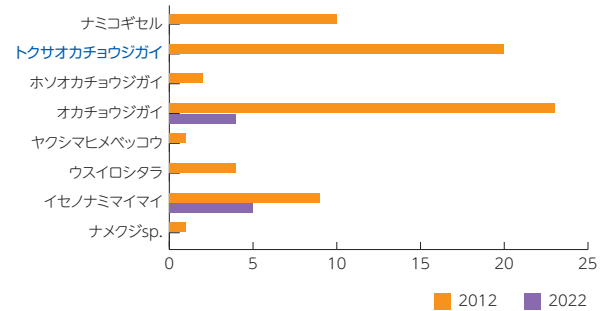


図27. アジアベッコウ

3-3 調査地点別の特徴

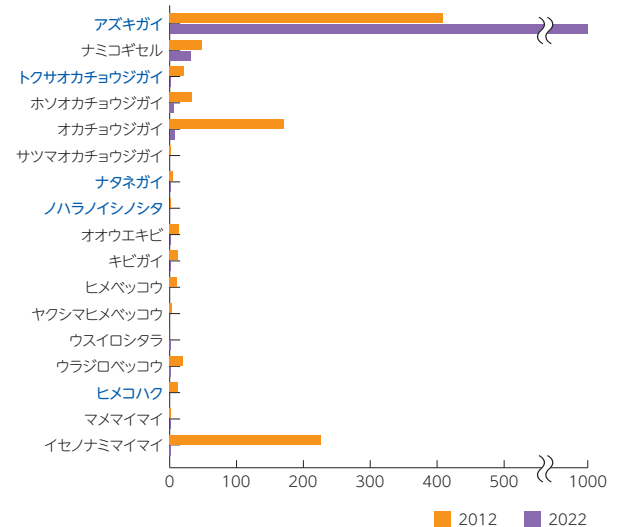
1. 茶屋ヶ坂公園

イセノナミマイマイ5個体とオカヨウジガイ4個体のみの確認でした。多様度指数は0.99で、平均1.76、最大値3.21や10年前の値2.38(平均1.95)を大きく下回ります。10年前に多くの個体が発見された外来種のトクサオカチョウジガイも発見されなかったことは注目に値します。乾燥化や植生遷移の進行が原因の一つとして考えられます。



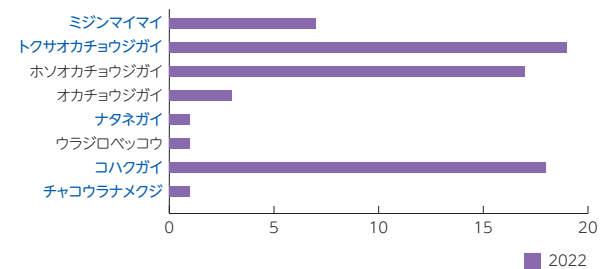
2. 城山八幡宮

種数・個体数ともに10年前に比べて激減しましたが、国内外来種のアズキガイだけが激増しています。もともと沢山いでしたが、さらに増え続けていることを確認しました。詳細な個体数を把握していませんが(ざっと見渡すだけでも数千個体を超えますが)、結果表示は999にとどめました。これが原因で多様度指数はワースト3位の0.42でした。



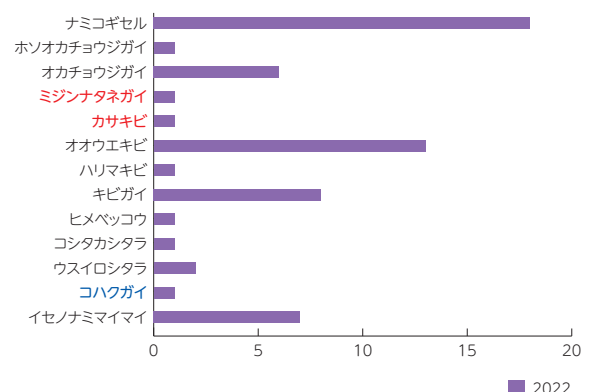
3. 千種公園

多様度指数は2.34ですので平均1.76を上回ります。各地の平均種数7.51をわずかに上回る8種の確認でしたが、外来種の種数が5割以上と多いのが特徴です。ホソオカチョウジガイ、オカチョウジガイは在来種ですが、市街地や乾燥したところで多く見つかる傾向にあり、外来種的要素の強い種です。典型的な都市部の市街地型の陸貝相といえます。



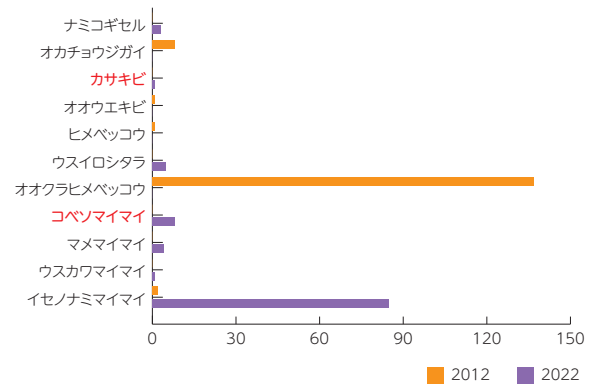
4. 東山の森(へいわの森)

多様度指数は市内第3位の2.91(平均1.76)で、確認種数は13種で平均7.51を大きく上回りました。種間の個体数も20個体未満で比較的安定しています。これだけの種数が見つかったのに、外来種がコハクガイ1種のみという点も注目に値します。最近の調査により、愛知県では稀少性が高いことが指摘されているミジンナタネガイも発見されました。



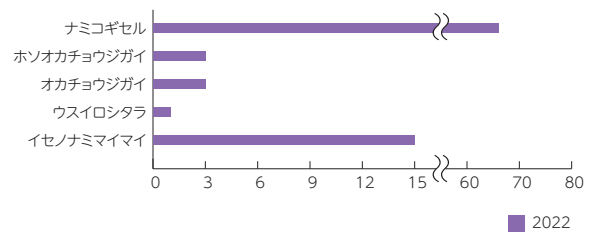
5. 東山の森(くらしの森)

多様度指数は1.20 (平均1.76) で、10年前に比べて種数は増えていますが、特定の種の個体数が多すぎると、種間の個体数のバランスが悪くなり、多様度指数は下がります。一般的には外来種が爆発的に増えたような時に、多様度指数が下がるがよくあります。市内では分布が極めて局所的な、コベソマイマイの棲息地であることが新たに分かりました。



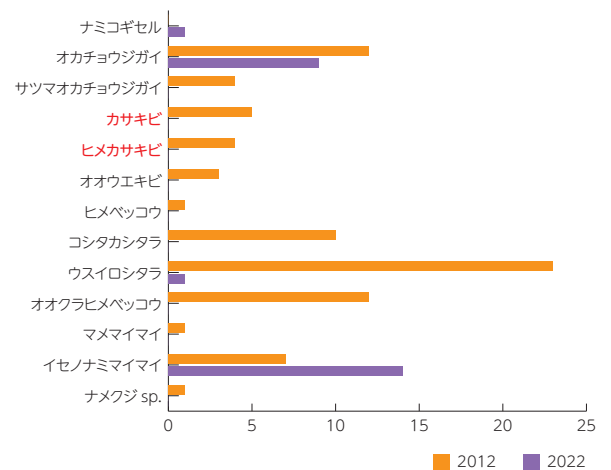
6. 東山の森(ふれあいの森)

多様度指数は1.15 (平均1.76)、発見種数は5種 (平均7.51) でともに平均を下回りました。ナミコギセル、ホソオカチョウジガイ、オカチョウジガイは、自然が破壊されたような市街地型の環境にも耐性があります。陸貝の多様性は低いということになりますが、外来種が見つかっていないということは、自然が守られているという指標にもなります。



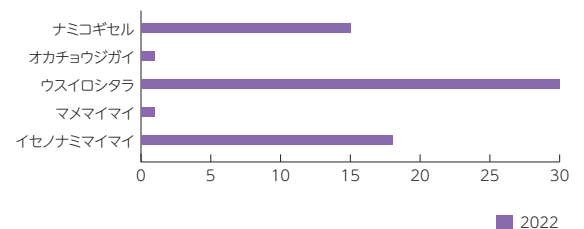
7. 東山の森(いのちの森)

多様度指数は1.37 (平均1.76)、発見種数は4種で、10年前の12種を大幅に下回りました。さらに10年前の多様度指数は3.06の市内第1位でしたので、陸貝の多様性は極めて低くなりました。悪化の原因については、植生遷移や乾燥化の他に、調査時のコンディションによる数値の低下も考えられますので、今後慎重に環境調査をする必要があります。



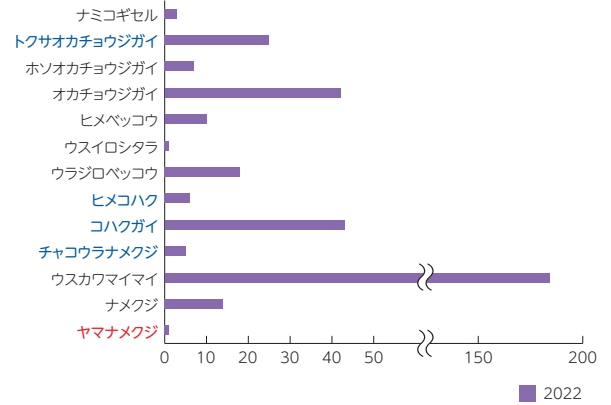
8. 東山の森(うるおいの森)

多様度指数は1.70 (平均1.76)、発見種数は5種 (平均7.51) でともに平均をやや下回りました。陸貝の多様性はやや低いですが、外来種が見つかっていない (外来種が侵入しにくい) ということは、自然が守られているという指標にもなります。発見された5種の中では、マメマイマイが比較的自然度の高いところで見つかる傾向にあります。



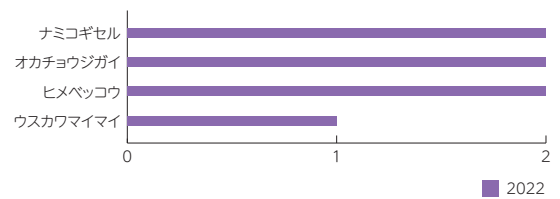
9. 名古屋大学東山キャンパス

発見種数は13種(平均7.51)、多様度指数は2.43(平均1.76)でした。多様度指数は平均を上回りますが、ウスカワマイマイの個体数が桁違いに多いことにより、種数の多さの割には低い結果となりました。東山キャンパスにはヒメボタルが棲息しており、これらの陸貝が餌になっている可能性が高いと考えられます。ヤマナメクジの発見も注目に値します。



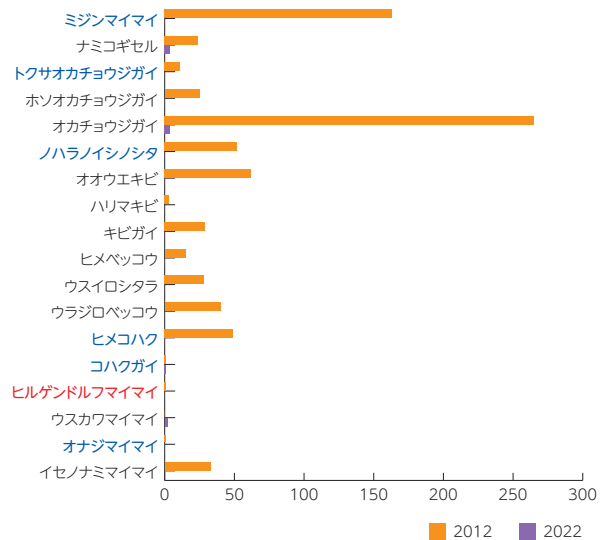
10. 木ヶ崎公園

発見種数は4種(平均7.51)、多様度指数は1.95(平均1.76)でした。種数は少ないものの多様度指数が平均を上回ったのは、少ない個体数が種間で安定していることによります。もともと陸産貝類相の非常に乏しいところです。リター層や腐葉土の堆積が少なく、全体的に乾燥化が進行していることが、多様性の低さに影響していると推定できます。



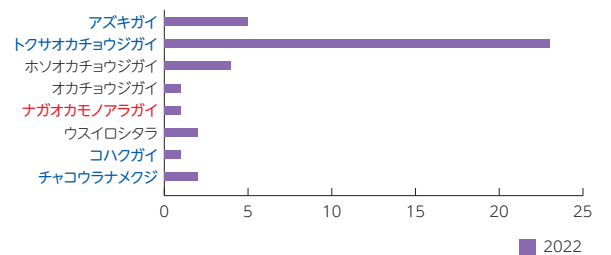
11. 長母寺

発見種数は4種(平均7.51)、多様度指数は1.82(平均1.76)でした。種数が少ないのに多様度指数が平均的な理由は、少ない個体数が種間で安定していることによります。10年前は17種802個体も発見され、多様度指数も3.10と、市内でもトップレベルの陸貝の多様性の高さを示していましたが、今回の調査では壊滅的な結果となりました。



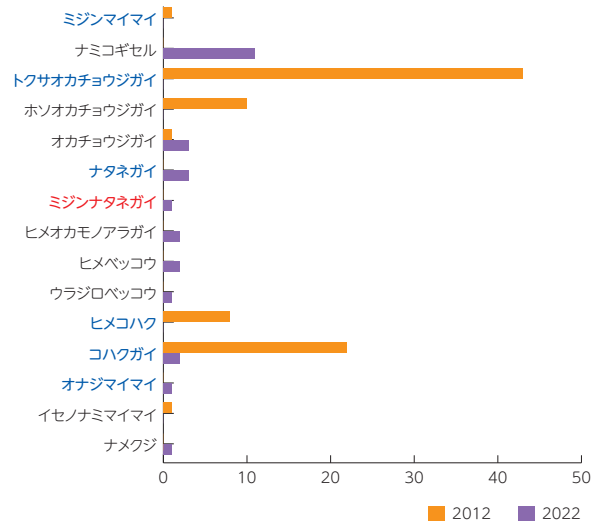
12. 徳川園

発見種数は8種(平均7.51)、多様度指数は2.01(平均1.76)でした。ともに名古屋市の平均に近い値です。外来種が5割で多いのが特徴です。国内移入種のアズキガイが見つかったことや、市内で絶滅危惧IB類(EN)に指定されているナガオカモノアラガイの発見は、いずれも注目すべき点です。管理された庭園での興味深い結果となりました。



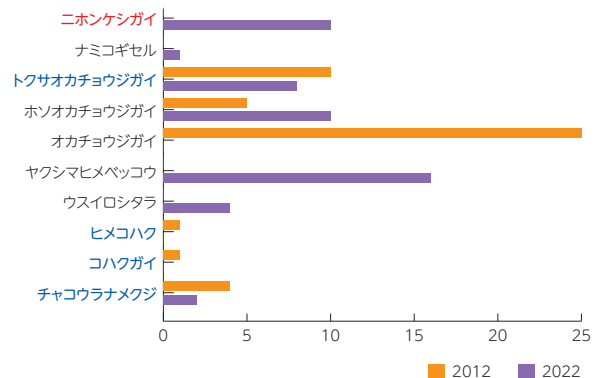
13. 名城公園

発見種数は10種（平均7.51）、多様度指数は2.77（平均1.76）でした。10年前の発見種数は7種（平均9.85）、多様度指数は1.91（平均1.95）でしたので、陸産貝類相は10年前に比べて、微小種を中心に豊かになったと言えます。10年前に沢山発見された、外来種のトクサオカチョウジガイやコハクガイが激減していることも特筆すべき点です。



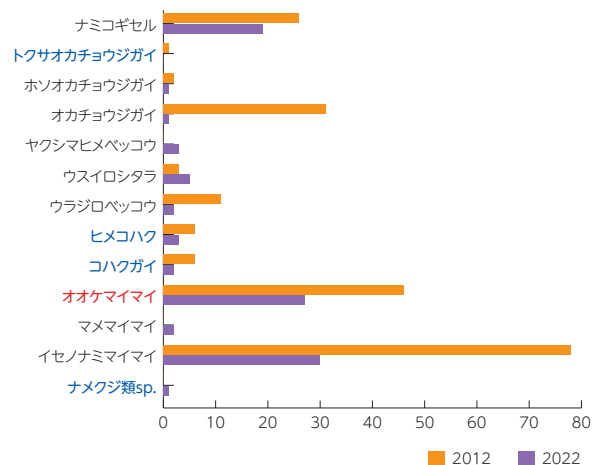
14. 庄内緑地

発見種数は7種（平均7.51）、多様度指数は2.45（平均1.76）でした。もともと陸産貝類相が貧弱であることが知られていましたが、広い緑地内でも、極めて局所的に陸貝が棲息していることが分かりました。中でも2021年に名古屋市初記録となったニホンケシガイが、今でも生き残っていることがわかりました。本種の記録は市内では庄内緑地のみです。



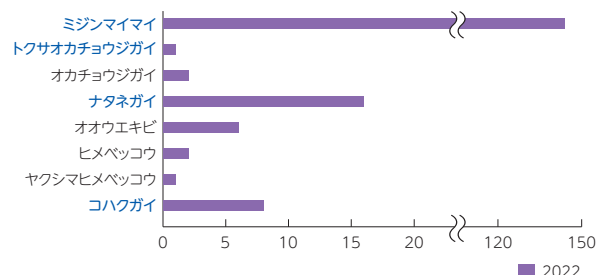
15. 名古屋城外堀

発見種数は12種（平均7.51）、多様度指数は2.59（平均1.76）でした。10年前の発見種数は10種（平均9.85）、多様度指数は2.50（平均1.95）でしたので、種数が増えて外来種だけが増え過ぎることもなく、種間の個体数が安定していると考えられます。市内でも棲息地が限られる、準絶滅危惧（NT）のオオケマイマイが安定した個体群を維持しています。



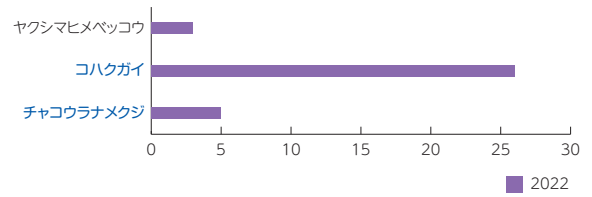
16. 久屋大通庭園フラリエ

発見種数は8種（平均7.51）、多様度指数は1.16（平均1.76）でした。今回の調査の平均的種数ですが、国内外来種と考えられているミジンマイマイが桁違いに多いことで、多様度指数がやや低い値を示しました。ミジンマイマイは、港区や南区で2009年に初めて市内から発見され、今回の調査で市内各地に分布を拡げたことが明らかになりました。



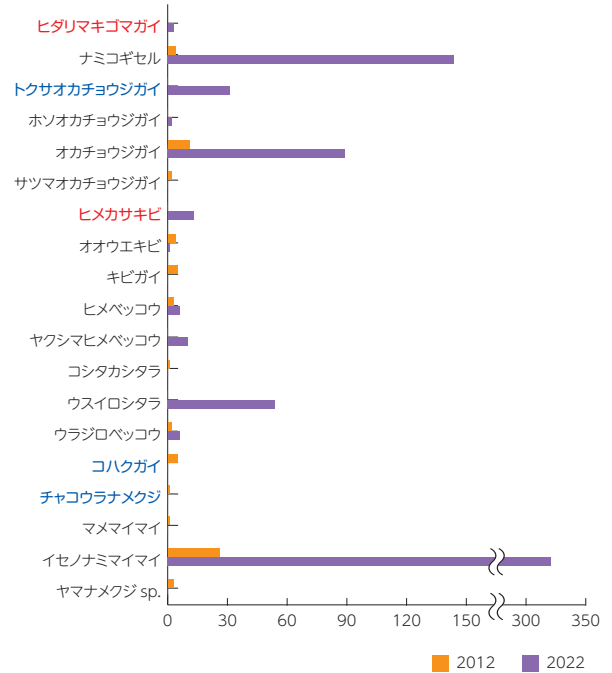
17. 鶴舞公園

発見種数は3種（平均7.51）、多様度指数は1.01（平均1.76）で、陸産貝類の多様性は低い結果となりました。総種数が平均を大幅に下まわり、ヤクシマヒメベッコウは在来種ですが、コハクガイとチャコウラナメクジは外来種です。種数が少なく、外来種の割合が大きいという点では、都市部の市街地型の構成パターンの1つと考えられます。



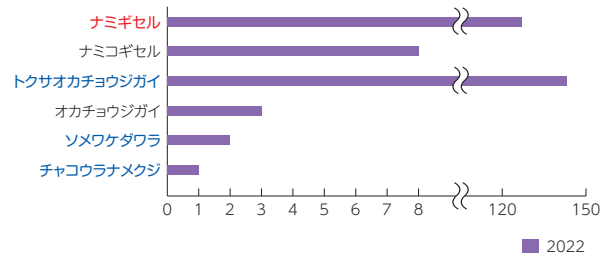
18. 興正寺公園

発見種数は12種（平均7.51）、多様度指数は2.25（平均1.76）でした。準絶滅危惧（NT）のヒダリマキゴマガイやヒメカサキビが見つかりました。2回のリーダー講習会の結果を示しましたので、確認個体数は680個体と多くなっています。10年前の発見種数は13種（平均9.85）、多様度指数は2.96（平均1.95）でしたので、多様性は小さくなっています。



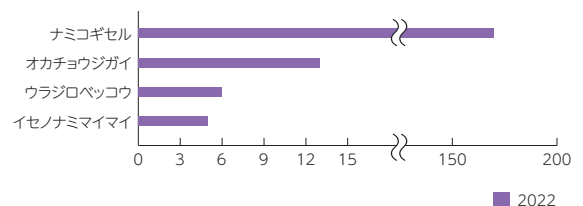
19. 山崎川(山下橋周辺)

発見種数は6種（平均7.51）、多様度指数は1.31（平均1.76）でした。最大の注目点は、調査後にマスコミにも取り上げられた、本州初記録の外来種ソメワケダワラが発見されたことです。沖縄や九州の一部に定着していますが、かけ離れた名古屋市内から発見されたことや、在来種には存在しない真っ赤な軟体部も、注目されるきっかけとなりました。



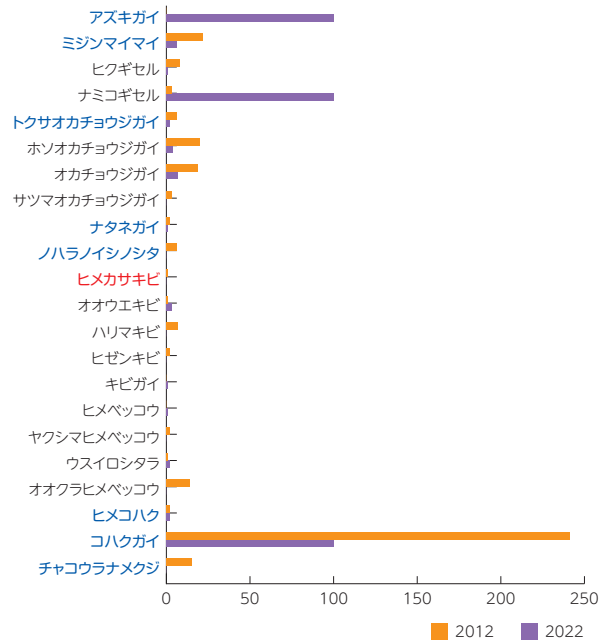
20. 山崎川(あゆちの水)

発見種数は4種（平均7.51）、多様度指数は0.72（平均1.76）で、平均を大きく下まわる結果でした。かつては陸貝を餌とするヒメボタルが生息していました。最近周辺の樹木が大幅に伐採され、林床が明るくなり一気に乾燥化が進行したことが、結果に大きく影響していると考えられます。乾燥に強い市街地型のナミコギセルが多く確認されました。



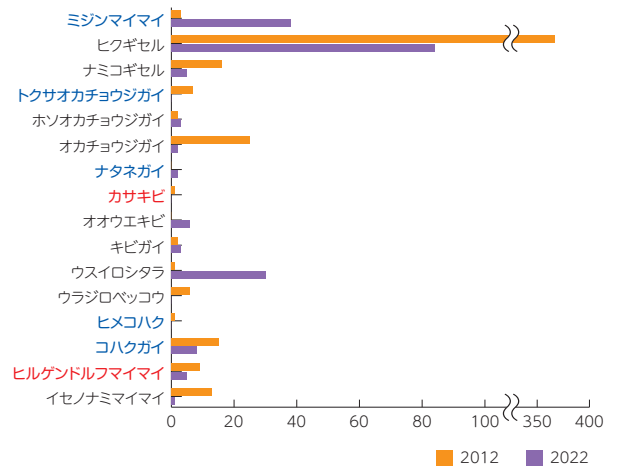
21. 高座結御子神社

発見種数は14種(平均7.51)、多様度指数は2.16(平均1.76)でした。10年前の発見種数は19種(平均9.85)、多様度指数は2.21(平均1.95)でしたので、陸貝の多様性は小さくなりました。ハリマキビやヒゼンキビを確認できず、新たに国内移入種のアズキガイが発見された点、ヒクギセルの個体数が減少した点が特徴的です。



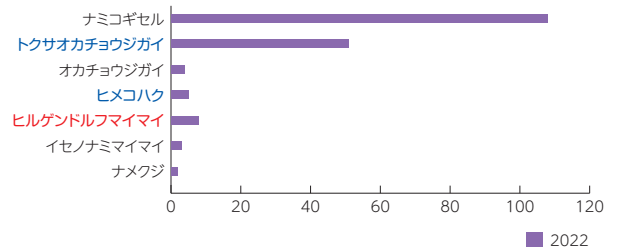
22. 熱田神宮公園

発見種数は12種(平均7.51)、多様度指数は2.41(平均1.76)でした。10年前の発見種数は14種(平均9.85)、多様度指数は2.21(平均1.95)でしたので、種数が少し減少し、多様度指数が上がりました。ヒクギセルは在来個体群であれば生物地理的に重要ですが、国内起源の外来種の可能性も考えられます。ヒルゲンドルフマイマイは健在でした。



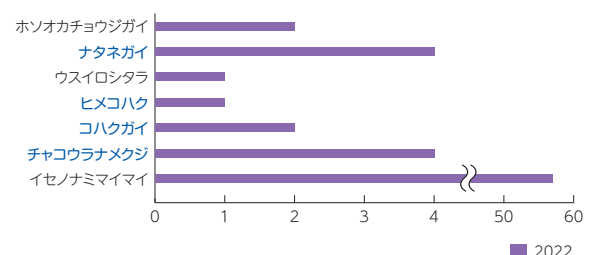
23. 白鳥公園

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は1.59(平均1.76)でした。絶滅危惧IB類(EN)のヒルゲンドルフマイマイが発見されたことは注目点ですが、外来種のトクサオカチョウジガイや、市街地型の乾燥に強いナミコギセルが多産したことが、多様度指数を平均より低くした原因と考えられます。ナメクジ類は在来種のみが発見されました。



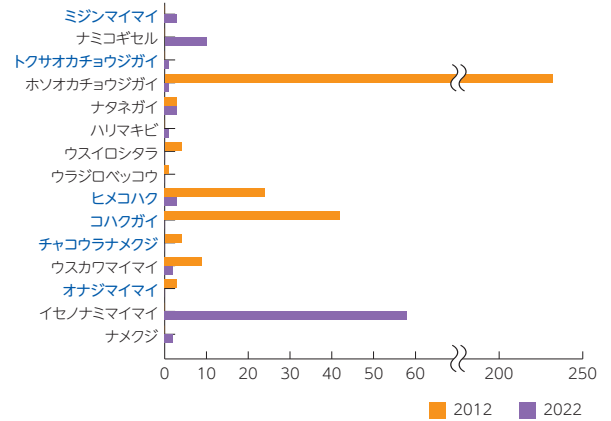
24. 神宮東公園

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は1.19(平均1.76)でした。種数は概ね市内平均でしたが、イセノナミマイマイの個体数が多い点が、多様度指数を低くしたと考えられます。ヒメコハクガイ、コハクガイ、チャコウラナメクジは外来種ですし、名古屋市に分布するナタネガイは外来種的要素が強いので外来種として扱いました。



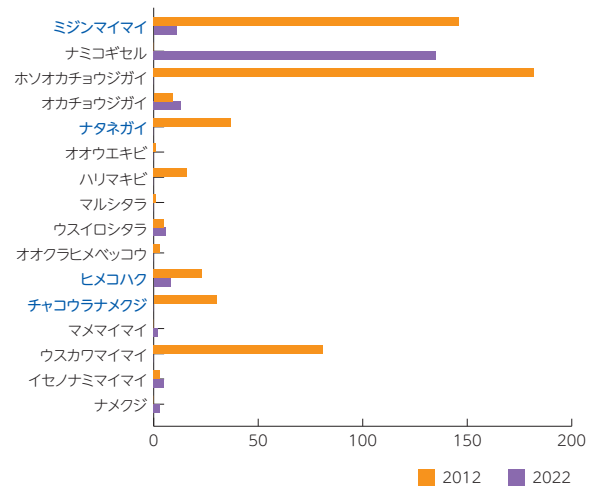
25. 富田公園

発見種数は10種（平均7.51）、多様度指数は1.73（平均1.76）でした。10年前の発見種数は9種（平均9.85）、多様度指数は1.46（平均1.95）でしたので、数値的に大きな変化はありませんが、種構成が大きく変わりました。本調査地もそうですが、市内各地で多かったチャコウラナメクジが減少し、在来種のナメクジの記録が増加傾向にあります。



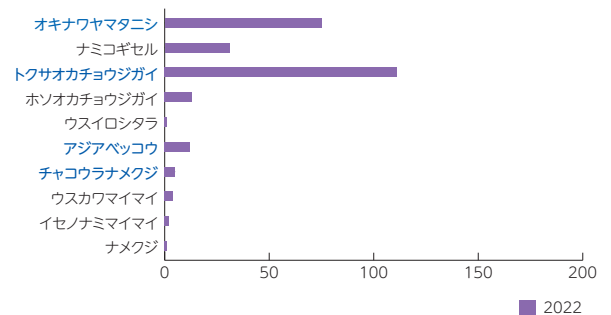
26a. 戸田川緑地(北部)

10年前の調査地（北部）と新規調査地（南部）を区別して調査しました。発見種数は8種（平均7.51）、多様度指数は1.51（平均1.76）でした。10年前の発見種数は13種、多様度指数は2.57でしたので、多様性は下がりました。ホソオカチョウジガイやチャコウラナメクジが姿を消し、ナミコギセルやナメクジが新たに見つかりました。



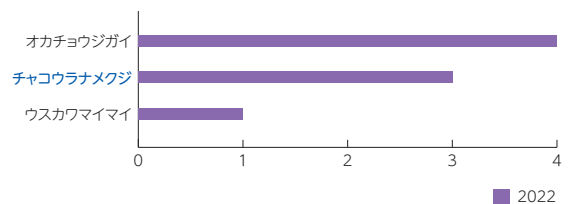
26b. 戸田川緑地(南部)

南部の温室および温室周辺を調査しました。発見種数は10種（平均7.51）、多様度指数は2.16（平均1.76）で共に平均を上回りました。特筆すべき点は外来種のアジアベッコウとオキナワヤマタニシが発見された点です。前者は一斉調査で発見された全種の中で、唯一死殻だけの発見でしたが、後者は温室内で繁殖し、温室外でも生貝が見つかりました。



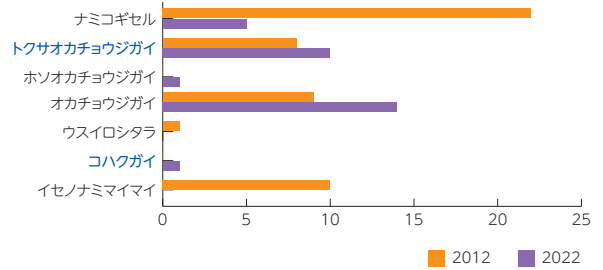
27. 荒子川公園

発見種数は3種（平均7.51）、多様度指数は1.41（平均1.76）でした。陸産貝類の多様性は極めて低いと判断されます。3種ともに都市部の公園や民家の庭などでも発見されることの多い市街地性種です。また、いずれも耕作地などで個体数が増えると、農作物を食害することがあります。オカウジガイは多少の乾燥にも耐えられます。



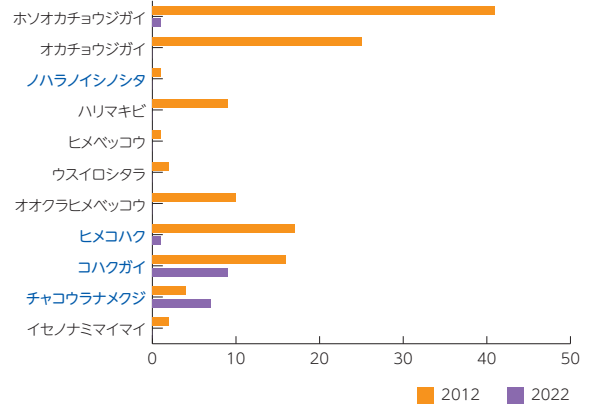
28. 呼続公園

発見種数は5種(平均7.51)、多様度指数は1.79(平均1.76)でした。10年前の発見種数は5種(平均9.85)、多様度指数は1.97(平均1.95)でしたので、数値的な変化はほとんどありません。市内全域に分布するイセノナミマイマイが姿を消し、新たにホソオカチョウジガイと、北アメリカ原産の外来種コハクガイが確認されました。



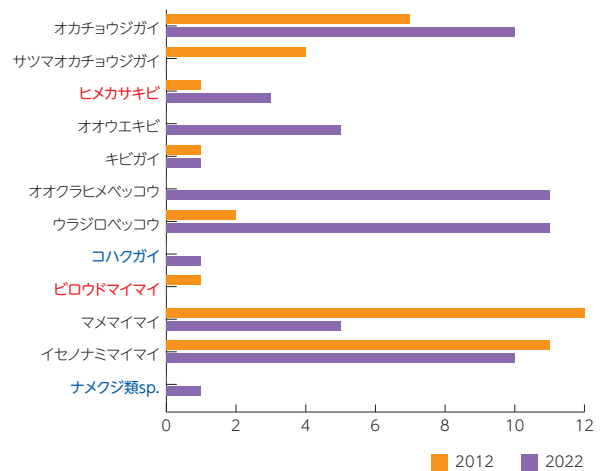
29. 大江川緑地

発見種数は4種(平均7.51)、多様度指数は1.49(平均1.76)でした。10年前の発見種数は11種(平均9.85)、多様度指数は2.76(平均1.95)でしたので、陸産貝類の多様性はかなり低くなりました。さらに、今回発見されたホソオカチョウジガイを除く3種は外来種です。ホソオカチョウジガイは在来種ですが、市街地に出現しやすい傾向があります。



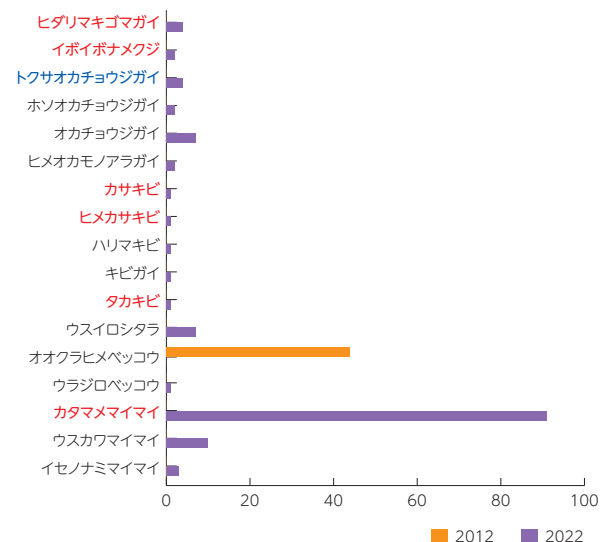
30. 八竜緑地

発見種数は10種(平均7.51)、多様度指数は2.92(平均1.76)でした。10年前の発見種数は8種(平均9.85)、多様度指数は2.45(平均1.95)でしたので、陸産貝類の多様性は大きくなりました。10年前に比べてオオウエキビ、オオクラヒメベッコウなど3種が増えましたが、絶滅危惧Ⅱ類(VU)のビロウドマイマイは見つかりませんでした。



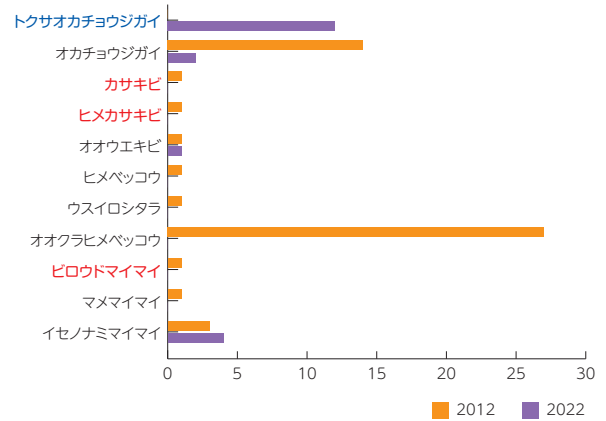
31. 東谷山

発見種数は16種(平均7.51)、多様度指数は2.10(平均1.76)でした。10年前の発見種数は1種、多様度指数は0でしたので激変しました。特筆すべきは、名古屋市初記録となるイボイボナメクジ、タカキビ、カタマメマイマイの3種もが発見されたことです。いずれも稀少性が高く、愛知県同様に名古屋市でもRDBへの掲載は確実と考えます。



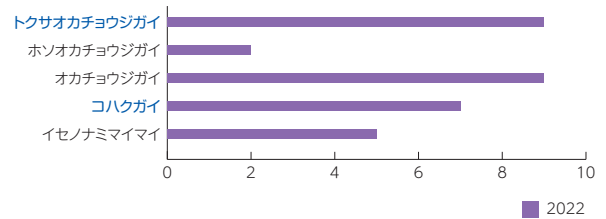
32. 小幡緑地(本園)

発見種数は4種(平均7.51)、多様度指数は1.46(平均1.76)でした。10年前の発見種数は10種(平均9.85)、多様度指数は2.02(平均1.95)でしたので、陸産貝類の多様性は大きく減少しました。絶滅危惧Ⅱ類(VU)のヒロウドマイマイや準絶滅危惧(NT)のヒメカサキビは姿を消し、東南アジア原産の外来種トクサオカチョウジガイが急増しました。



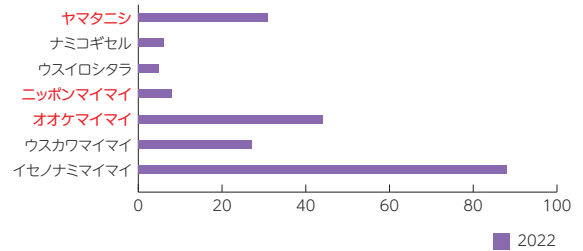
33. 雨池公園

発見種数は5種(平均7.51)、多様度指数は2.18(平均1.76)でした。発見種数は平均を下回りましたが、種間の個体数の差が小さく、バランスが保たれているので多様度指数は平均より高い値を示しました。出現種はいずれも平地性種や市街地性種で、ある程度の乾燥にも耐えられる、市内の市街地型の典型的な構成パターンといえます。



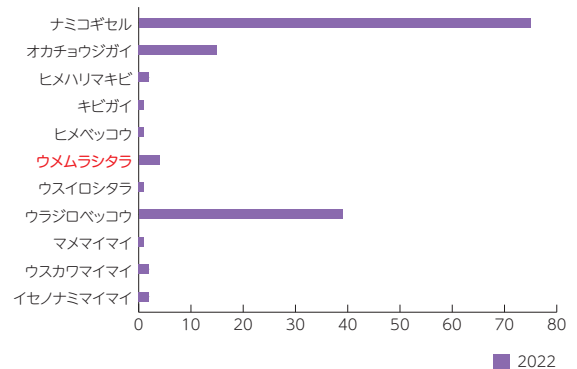
34. 竜泉寺

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は2.24(平均1.76)でした。調査前半まで雨が降っていたためか、リターのソーティングが困難で微小陸貝をほとんど見つけられませんでした。一方で、市内ではここにしか棲息しないヤマタニシを確認することができました。また、市内で準絶滅危惧(NT)のニッポンマイマイとオオケマイマイも健在でした。



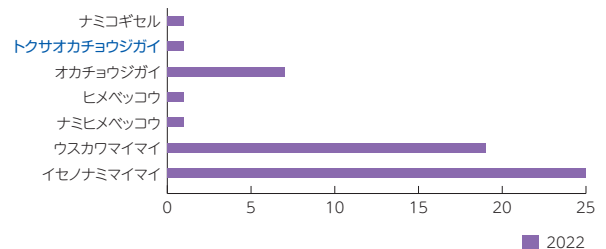
35. 才井戸流

発見種数は11種(平均7.51)、多様度指数は1.94(平均1.76)でした。発見種数が比較的多かったものの、ナミコギセルとウラジロベッコウの個体数が、他種よりかけ離れて多かったことが、多様度指数が伸びなかった原因と考えられます。市内では発見例が少ないヒメハリマキビや、準絶滅危惧(NT)のウメムラシタラが見つかったことは要注目です。



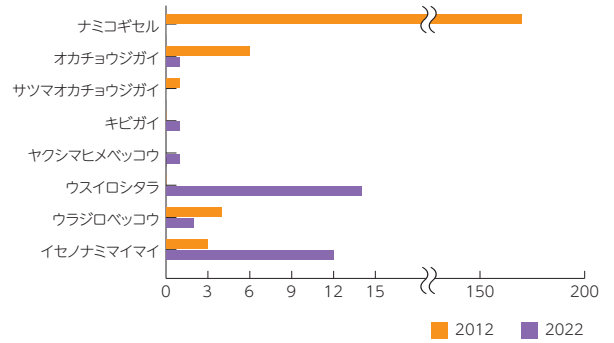
36. 東谷山フルーツパーク

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は1.85(平均1.76)でした。ともに市内の平均的な値となりました。果樹などが植えられているため、外来種が多いと予想しましたが、外来種はトクサオカチョウジガイの1種にとどまりました。今回の一斉調査では本地点のみで、ナミヒメベッコウの生貝が1個体だけ発見されたのは注目すべき点です。



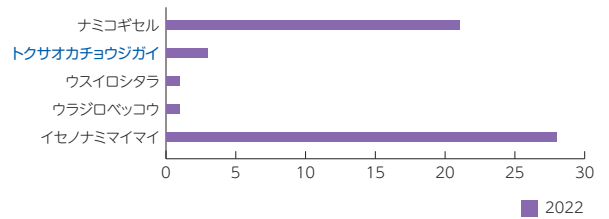
37. 大高緑地(花木園)

発見種数は6種(平均7.51)、多様度指数は1.78(平均1.76)でした。10年前の発見種数は5種(平均9.85)、多様度指数は0.52(平均1.95)でしたので、陸産貝類相の多様性は多少上がりました。キビガイ、ヤクシマヒメベッコウ、ウスイロシタラが新たに確認された一方で、10年前に桁違いの個体数だったナミコギセルは姿を消しました。



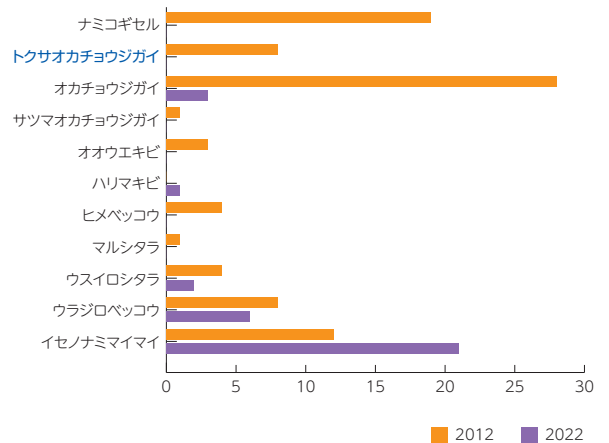
38. 大高緑地(管理事務所周辺)

発見種数は5種(平均7.51)、多様度指数は1.47(平均1.76)でした。ともに名古屋市の平均を下回りました。前述の大高緑地(花木園)で見つからなかったナミコギセルや、トクサオカチョウジガイが発見されていますので、広い緑地内では、調査地点毎に種構成が変わることが明らかになりました。いずれも市街地や平地で見られる一般的な種類の陸貝です。



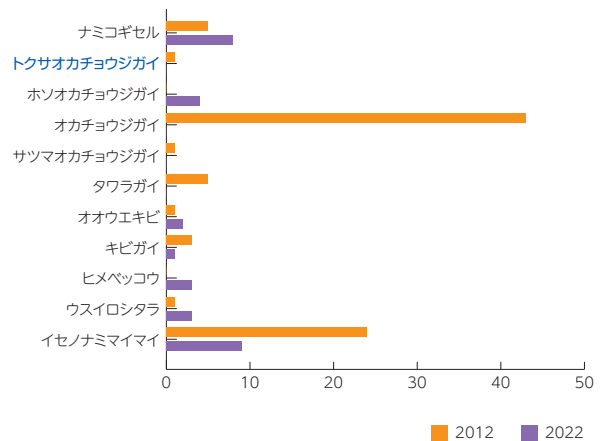
39. みどりが丘公園

発見種数は5種(平均7.51)、多様度指数は1.57(平均1.76)でした。10年前の発見種数は10種(平均9.85)、多様度指数は2.74(平均1.95)でしたので、陸産貝類相はとても貧弱になったと言えます。ナミコギセル、トクサオカチョウジガイ及びオカチョウジガイのような多産種が全く見られない、または激減したことは注目すべき点です。



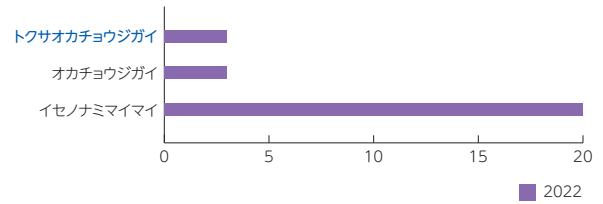
40. 細根公園

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は2.51(平均1.76)でした。10年前の発見種数は9種(平均9.85)、多様度指数は1.97(平均1.95)でした。種数が減ったものの多様度指数が上がった原因は、個体数のバラツキが無くなったことによります。市内では唯一、細根公園だけで見つかったタワラガイを今回は発見できませんでした。



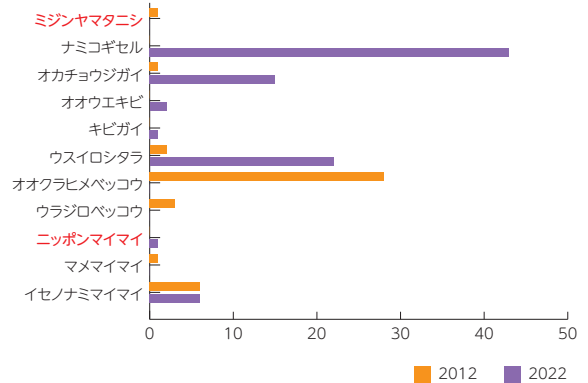
41. 鷺津砦公園

発見種数は3種(平均7.51)、多様度指数は1.01(平均1.76)でした。ともに名古屋市の平均を大きく下まわる結果となりました。市街地の公園や民家の庭にも見られるような種構成です。近年、絶滅危惧II類(VU)のヒゼンキビや、準絶滅危惧(NT)のヒダリマキゴマガイが見つかったのですが、今回の調査では発見されませんでした。



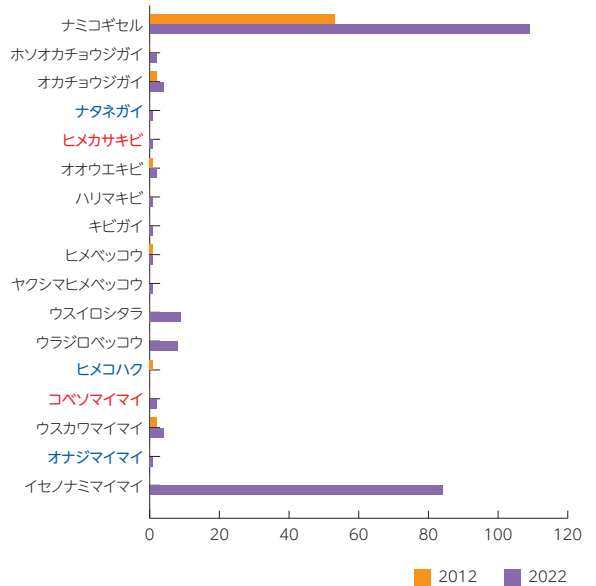
42. 明德公園

発見種数は7種(平均7.51)、多様度指数は1.96(平均1.76)でした。10年前の発見種数は7種(平均9.85)、多様度指数は1.66(平均1.95)でした。数値はあまり変化しませんが、種構成が変わりました。オオクラヒメベッコウが姿を消し、ナミコギセルが多く見つかりました。準絶滅危惧(NT)のミジンヤマタニシは見つかりませんでした。



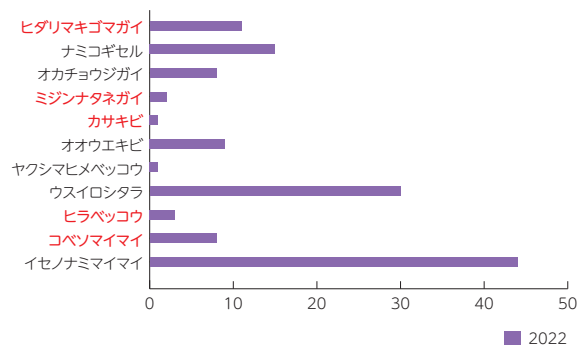
43. 猪高緑地(塚ノ杵池周辺)

下見での発見種も加えての結果を示します。発見種数は16種(平均7.51)、多様度指数は2.01(平均1.76)でした。10年前の発見種数は7種(平均9.85)、多様度指数は1.66(平均1.95)でしたので、陸貝の多様性は大きくなりました。ハリマキビ、キビガイや、市内では準絶滅危惧(NT)のコベソマイマイが発見された点は注目に値します。



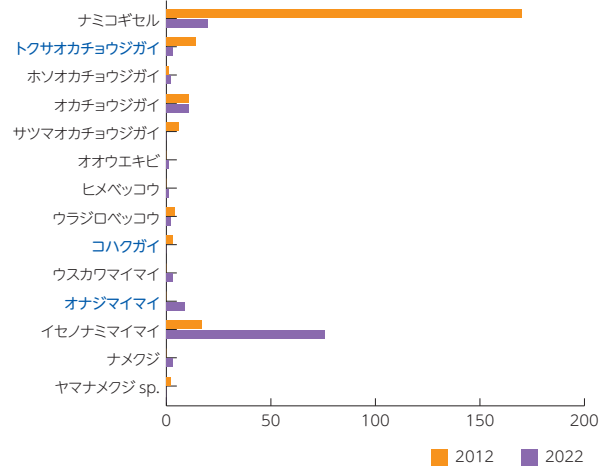
44. 猪高緑地(すり鉢池周辺)

発見種数は11種(平均7.51)、多様度指数は2.75(平均1.76)でした。ともに市内では高い値となり、陸産貝類の多様性が高いと言えます。外来種が全く見つからない点も注目に値します。さらに、ヒダリマキゴマガイ、ヒラベッコウ、コベソマイマイの3種の準絶滅危惧(NT)が見つかったことから、棲息環境がとても良好だと考えられます。



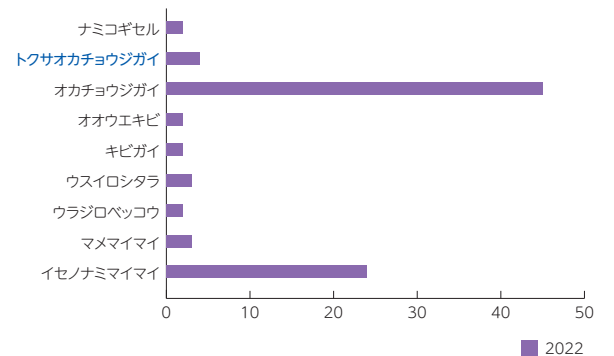
45. 牧野ヶ池緑地(東部)

発見種数は11種(平均7.51)、多様度指数は2.10(平均1.76)でした。10年前の発見種数は9種(平均9.85)、多様度指数は1.47(平均1.95)でしたので、陸産貝類相は多少豊かになったと言えます。10年前に未発見であった、オオウエキビやヒメベッコウなどが新たに発見されました。かつて減少傾向だった在来種のナメクジも見つかっています。



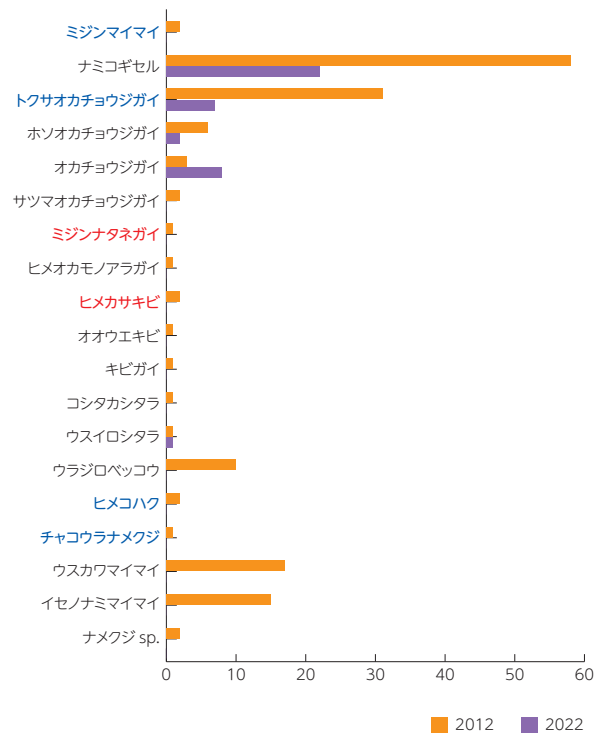
46. 牧野ヶ池緑地(西部)

発見種数は9種(平均7.51)、多様度指数は2.04(平均1.76)でした。9種見つかりましたが、外来種は東南アジア原産のトクサオカチョウジガイ1種だけでした。オカチョウジガイは市内各地に分布し、各地における棲息個体数が極端に多いことがあります。名古屋市東部に分布が偏ったキビガイは、ある程度の自然が残った環境に棲息します。



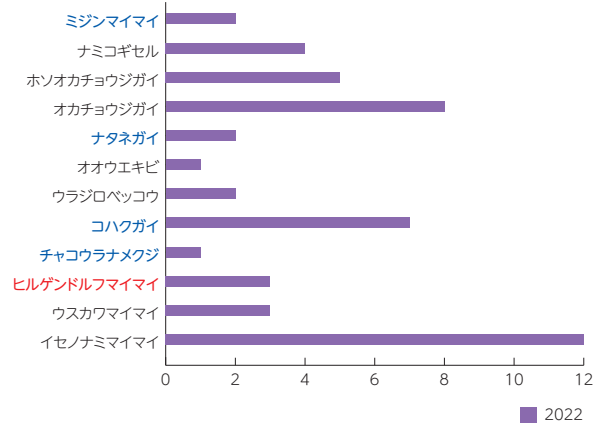
47. 相生山緑地(オアシスの森)

発見種数は5種(平均7.51)、多様度指数は1.73(平均1.76)でした。10年前の発見種数は19種(平均9.85)、多様度指数は2.93(平均1.95)でしたので、ともに大幅に悪くなりました。乾燥化の進行や、陸貝の棲息場所が局所的なことなどが原因と考えられます。10年前に比較的個体数の多かった種が激減したり、全く見つからなくなりました。



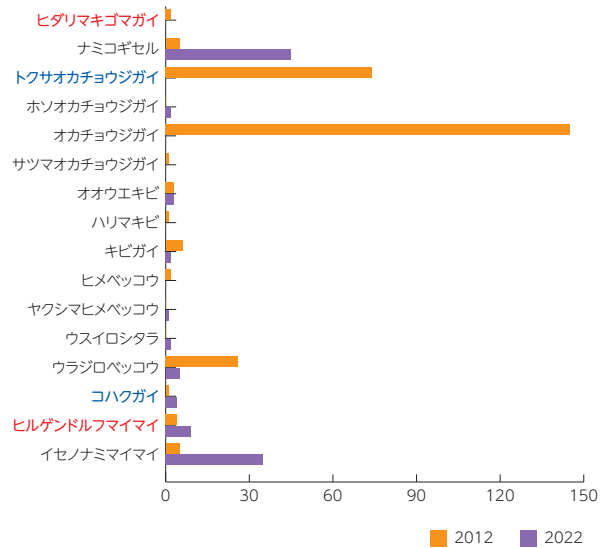
48. 相生山緑地(南部)

発見種数は12種(平均7.51)、多様度指数は3.21(平均1.76)でした。多様度指数は今回の調査で第1位でした。種間での個体数のバラツキが小さく、比較的安定していたのが影響しています。外来種が極端に増加傾向を示さない点も、良好な環境の指標になります。絶滅危惧IB類(EN)のヒルゲンドルフマイマイが発見されたことも重要です。



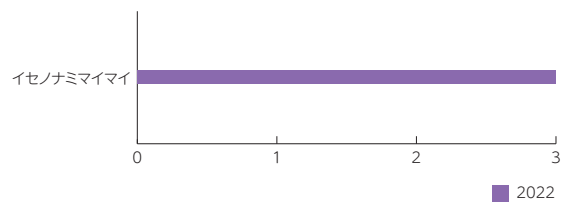
49. 荒池緑地

発見種数は10種(平均7.51)、多様度指数は2.26(平均1.76)でした。10年前の発見種数は13種(平均9.85)、多様度指数は2.75(平均1.95)でしたので、市内では陸貝の多様性が比較的大きい方ですが、10年前よりは悪くなっています。注目していたヒルゲンドルフマイマイは健在でしたが、ヒダリマキゴマガイは発見できませんでした。



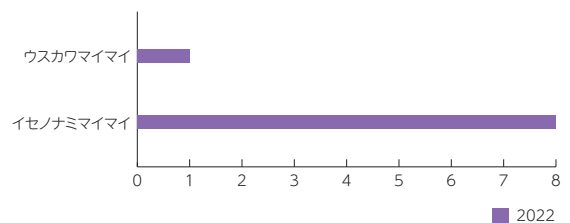
50. 東山公園テニスセンター

発見種数は1種(平均7.51)のみ、多様度指数は0.00でした。イセノナミマイマイが3個体確認できただけででした。もともとの辺りは、八事層のチャート礫が堆積していて水はけが良いため、腐葉土が形成されにくく、陸産貝類相が極めて乏しいことを把握しています。調査をされた方々は残念に思われたかもしれませんが、相応の結果であると考えます。



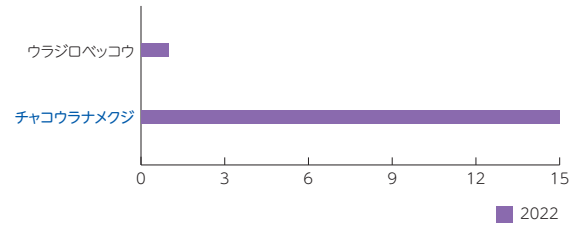
51. 島田緑地

発見種数は2種(平均7.51)、多様度指数は0.50(平均1.76)でした。陸産貝類の多様性は極めて低い結果となりましたが、名古屋市内の緑地公園では珍しい例ではなく、陸産貝類が全く発見できない場合もよくあります。植物がほとんど植えられておらず、リター層や腐葉土がほとんど見られず、そもそも陸貝の棲息環境が乏しい場合があります。



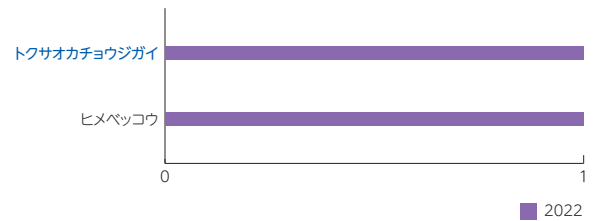
101a. 北陵中学校

発見種数は2種（平均7.51）、多様度指数は0.34（平均1.76）でした。陸産貝類の多様性は極めて低い結果となりました。ヨーロッパ原産の外来種であるチャコウラナメクジの個体数が多い点が特徴的です。かつてはよくあるパターンでしたが、市内の最近の傾向としては、在来種の名メクジが以前より増えて、チャコウラナメクジが減少傾向にあります。



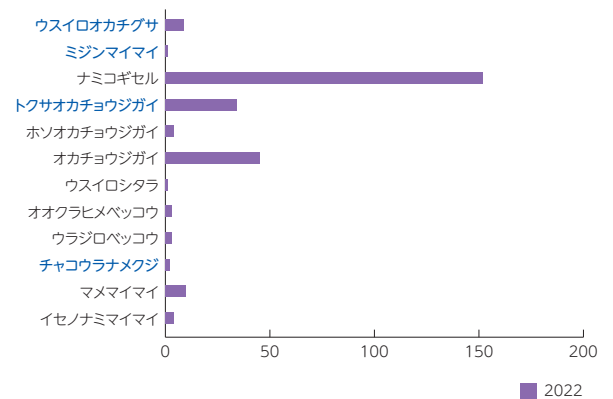
101b. 東志賀公園(北陵中学校)

発見種数は2種（平均7.51）、多様度指数は1.00（平均1.76）でした。陸貝の多様性は極めて低い結果でした。前述の51島田緑地や、101a北陵中学校と比較していただければ分かるように、種数が少ない場合は、僅かな個体数の差異やバラツキにより、多様度指数が大きく変化しますので、多様度指数のみでの評価は必ずしも十分ではありません。



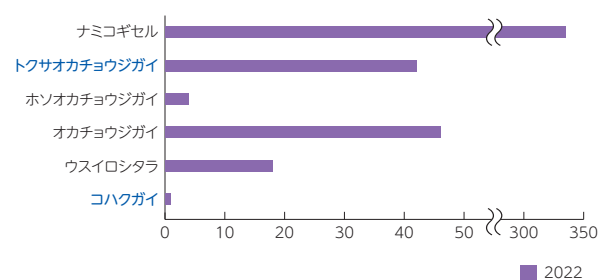
102. 西城小学校

発見種数は12種（平均7.51）、多様度指数は2.05（平均1.76）でした。市内の小学校の敷地という点では予想以上に、種数、多様性ともに高い結果が出ました。植栽が豊かであったり、花壇やビオトープが整備されているような場合に、陸貝の多様性が高くなることがあります。いずれの理由であっても、市内としては高い多様性が示されたといえます。



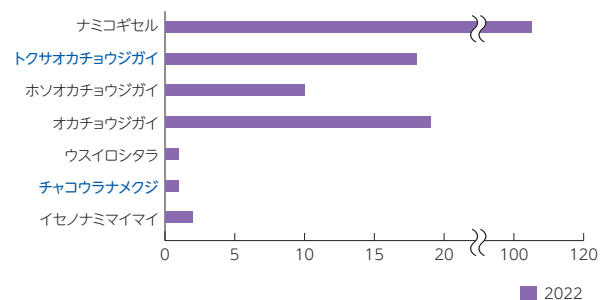
103. 鳴海小学校

発見種数は6種（平均7.51）、多様度指数は1.24（平均1.76）でした。ナミコギセルが桁違いに多かったことで、多様度指数は低く示されましたが、市内としては平均的な種数です。ナミコギセルやオカチョウジガイ類など、市街地型の典型的な種構成と考えられます。ナミコギセルが畑などで増えると問題になりますが、雑木林での実害はないようです。



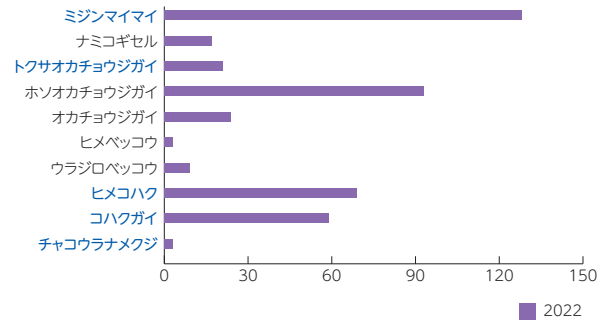
104. 天白溪下池公園(大坪小学校)

発見種数は7種（平均7.51）、多様度指数は1.54（平均1.76）でした。前述の103鳴海小学校と同様に、ナミコギセル、3種のオカチョウジガイ類やチャコウラナメクジなど、市街地型の典型的な種構成と考えられます。市街地では乾燥耐性の強いナミコギセル優占型の陸産貝類相が形成されることがよくあります。



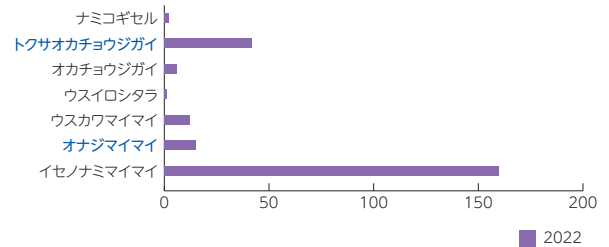
201. 名古屋経済大学市邨高校

発見種数は10種（平均7.51）、多様度指数は2.67（平均1.76）でした。いずれも平均を上まわり、陸産貝類相は豊かですが、外来種が多いのが特徴的です。市街地では、陸貝の棲息自体が困難な場所も多くあることを考えれば、外来種を含めて、陸貝が棲息できる環境条件が整っていると考えられます。ミジンマイマイの個体数が多い点も市街地型の特徴です。



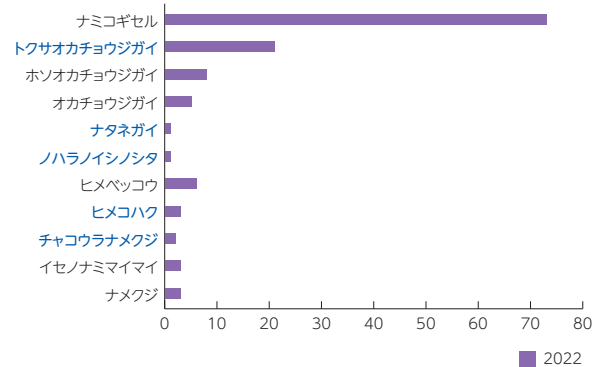
202. 庄内川河川敷(名城大学附属高校)

発見種数は7種（平均7.51）、多様度指数は1.52（平均1.76）でした。いずれも名古屋市の平均的な値でした。都市部の河畔林・河川敷としては一般的な種構成です。イセノナミマイマイは山麓～平地に分布し、都市部の公園、神社や民家の庭などにも見られ、大量繁殖することがあります。オナジマイマイは外来種ですが、市内の分布は部分的です。



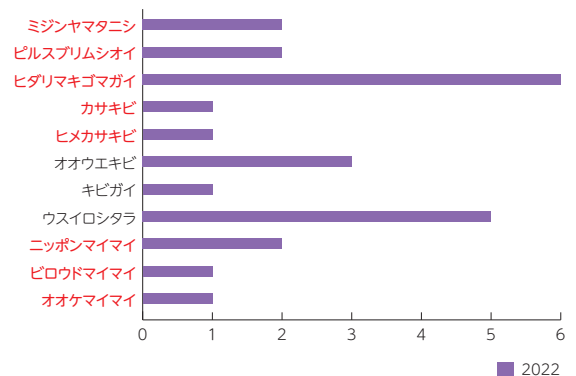
203. 愛知県立一宮高校

発見種数は11種（平均7.46）、多様度指数は2.12（平均1.80）でした。ともに名古屋市の平均を上まわりました。ナミコギセルの個体数が多く、オカチョウジガイ類が3種出現し、多くは平地型・市街地性種で、外来種が多いのも特徴的です。ナメクジについては在来種と外来種ともに出現しています。ノハラノイシノシタは本地点のみでの発見です。



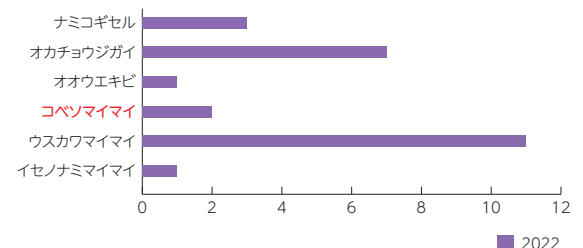
301. 海上の森

発見種数は11種（平均7.46）、多様度指数は3.13（平均1.80）でした。名古屋市外ですが、全調査地の中で多様度指数が第2位でした。外来種が全く見つからず、“名古屋市の”RDB掲載種が多数含まれている点が特徴的です。全体的に個体数は少ないものの、種間のバラツキが小さく、名古屋市では未確認のピルスブリムシオイも発見されました。



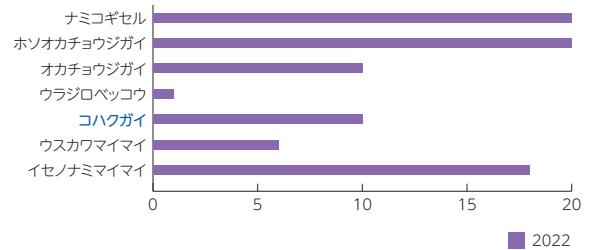
302. モリコロパーク

発見種数は6種（平均7.46）、多様度指数は2.07（平均1.80）でした。第四紀の礫層が広範囲に分布し、水はけがよく、リター層や腐葉土層の堆積が少ないため、かつて筆者が調査した時は、陸貝相は壊滅的でした。それに比べれば局所的かもしれませんが、陸貝相は豊かと言えます。名古屋市外ですが、コベソマイマイの発見は特筆すべき点です。



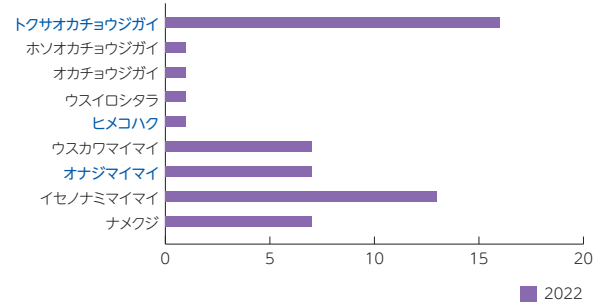
303. 二村山

発見種数は7種（平均7.46）、多様度指数は2.53（平均1.80）でした。発見種数は平均的ですが、種間の個体数のバラツキが小さく安定しているため、多様度指数はやや大きい値を示しました。RDB掲載種は発見されず、乾燥に抵抗力の強いナミコギセルや、北アメリカ原産のコハクガイが見られるなど、一般的な平地性・市街地性の種構成です。



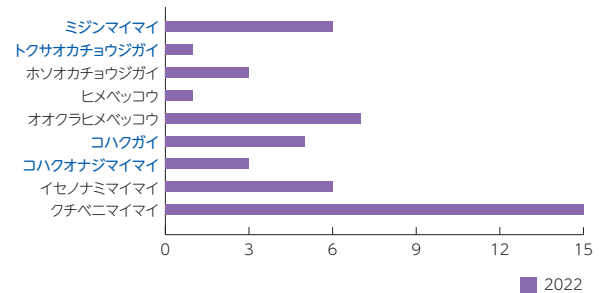
304. 尾張広域緑道フレッシュパーク

発見種数は9種（平均7.46）、多様度指数は2.59（平均1.80）でした。発見種数、多様度指数ともに平均を上まわりましたが、RDB掲載種は発見されず、オカチョウジガイが3種発見され、北アメリカ原産の外来種コハクガイと、東南アジア原産の外来種オナジマイマイが見つかるなど、典型的な平地型・市街地型の種構成でした。



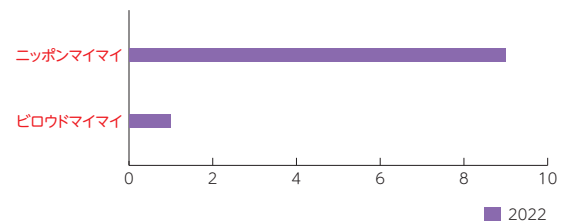
305. サリオパーク祖父江

発見種数は9種（平均7.46）、多様度指数は2.78（平均1.80）でした。4種の外来種が見つかりましたが、発見種数、多様度指数ともに平均を上まわりました。かつては河川砂丘でしたが、上流域から漂着した種子などにより河畔林が形成され、陸産貝類も定着しています。コハクオナジマイマイとクチベニマイマイは、今回ここだけでの発見となりました。



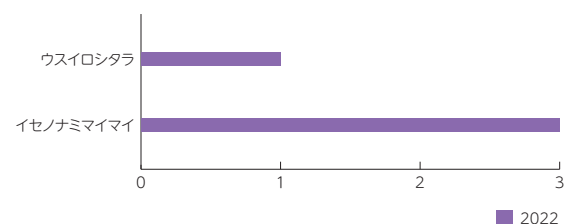
306. 犬山水生生物園

発見種数は2種（平均7.46）、多様度指数は0.47（平均1.80）でした。発見種数、多様度指数ともに平均を大きく下まわり、陸産貝類相は乏しいようです。名古屋市外ですが、発見された2種ともに、名古屋市ではRDB掲載種です。ヒロウドマイマイについては名古屋市で絶滅危惧II類（VU）、愛知県でも準絶滅危惧（NT）に指定されています。



307. 尾張旭市新居町寺田の里山(名古屋産業大学)

発見種数は2種（平均7.46）、多様度指数は0.81（平均1.80）でした。発見種数、多様度指数ともに平均を大きく下まわり、陸産貝類相は極めて乏しいようです。ウスイロシタラとイセノナミマイマイは、両種ともに山麓～平地にまで広く分布する種です。ともに市街地でも見つかりますし、後者については都市部の公園や民家の庭にも棲息します。



3-4 各種別の結果と解説

普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

1. ヤマトニシ

Cyclophorus herklotsi Martens, 1861

かくしつ

革質の蓋をもち、触角は2本でその付け根に眼があります。一般に自然度の高い山地などに棲息します。市内では守山区竜泉寺のみに棲息し、準絶滅危惧 (NT) に選定されています。



2. オキナワヤマトニシ

Cyclophorus turgidus turgidus L. Pfeiffer, 1852

今回の調査で市内初記録となる注目種です。戸田川緑地の温室内及びその周辺 (温室外) で生貝が発見されました。奄美・沖縄諸島に分布するので国内移入種と考えられます。



3. アズキガイ

Pupinella (Pupinopsis) rufa (Sowerby, 1864)

「小豆」を連想させる赤紫褐色～深紅色の殻をもちます。分布は西日本が中心で、愛知県にはもともと棲息していませんでしたので、名古屋市の個体は明らかな国内移入種です。



4. ヒダリマキゴマガイ

Diplommatina (Sinica) pusilla (Martens, 1877)

ゴマガイ属では唯一の左巻きです。やや自然度の高いところに棲息し、名古屋市では準絶滅危惧 (NT) に選定されており、東部地域に局所的に分布しています。



5. ウスイロオカチグサ

Paludinassiminea debilis (Gould, 1859)

10年前の一斉調査で市内初確認となった国内移入種です。もともとは奄美諸島、沖永良部島、沖縄に分布する南方系種ですが、近年は西日本各地で発見が相次いでいます。



6. イボイボナメクジ

Granulilimax fuscicornis Minato, 1989

他の陸貝を捕食する珍しい肉食性種です。今回の調査で市内から初めて見つかった注目種です。愛知県では既に記録があり、準絶滅危惧 (NT) に選定されています。



7. ニホンケシガイ

Carychium nipponense Pilsbry and Y. Hirase, 1904

2021年の西区庄内緑地での発見が名古屋市初記録の微小種です。今回の調査でも生貝が見つかりましたが、市内での棲息地は庄内緑地のみで、希少種選定すべき種と考えます。



普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

8. ミジンマイマイ

Vallonia pulchellula (Heude, 1822)

じゅうろく
 殻は縦肋が顕著で黄白色透明です。RDBでは情報不足(DD)に指定されていますが、棲息地の環境や10年間での分布拡大状況から、移入種の可能性が疑われます。



9. ヒクギセル

Stereophaedusa gouldi (A.Adams, 1868)

黄褐色でつぶりとした紡錘形の殻が特徴です。名古屋は飛び地分布の西限として、生物地理学的に注目されていますが、国内移入種の可能性も捨てきれません。



10. ナミギセル

Stereophaedusa japonica (Crosse, 1871)

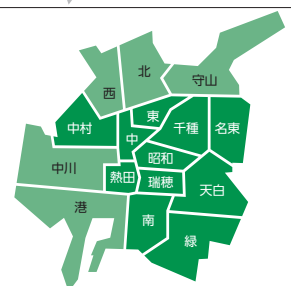
市内では、絶滅危惧IB類(EN)に選定され、個体群を維持しているのは、瑞穂区の山崎川河畔林だけのようです。愛知県においても分布は極めて局所的です。



11. ナミコギセル

Euphaedusa tau (Boettger, 1877)

比較的乾燥に耐性が強い小型のキセルガイ類です。市街地の公園や民家の庭などにも棲息し、自然が破壊されたところにも適応できます。市内全域に分布します。



12. トクサオカチョウジガイ

Paropeas achatinaceum (Pfeiffer, 1846)

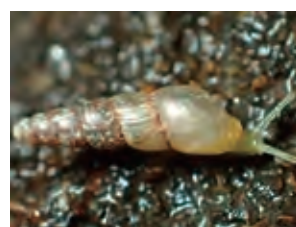
東南アジア原産の外来種です。かくひ殻皮が黄土色を帯びて光沢をもたないのが特徴です。市内全域に分布し、特に人為的改変の進んだ場所から多く発見されています。



13. ホソオカチョウジガイ

Allopeas pyrgula (Schmacker & Boettger, 1891)

日本全国に分布し、名古屋市でも全域で発見されています。苗床などに多数発生して、若芽を食害することがあります。在来種とされますが外来種的な要素の強い陸貝です。



14. オカチョウジガイ

Allopeas kyotoense (Pilsbry & Hirase, 1904)

殻に光沢のある、軟体部が黄色の細長い種類です。一斉調査では中川区だけ記録がありませんが、他の調査では中川区からも発見されていますので、名古屋市全域に分布します。



普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

15. サツマオカチョウジガイ

Allopeas satsumense (Pilsbry, 1906)

前種オカチョウジガイに似ていますが、^{らそ}螺層がより丸みを帯び、^{かくてい}殻底(頸)が若干伸びることで区別できます。本州・九州・奄美大島に分布しています。



16. タワラガイ

Sinoennea iwakawa (Pilsbry, 1900)

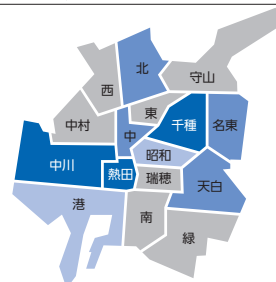
米俵に似た白色蛹形で微小な殻をもちます。本州、四国、九州に分布し、山地、丘陵地の腐葉土の堆積した所に生息します。腐肉食性の陸貝と考えられます。



17. ナタネガイ

Punctum amblygonum (Reinhardt, 1877)

糸状の^{じゅうろく}縦肋が特徴的な低円錐形の殻をもちます。似て異なる外来種も報告されています。名古屋市に分布する個体群は外来種的要素が強いため、外来種として扱いました。



18. ミジンナタネガイ

Punctum atomus Pilsbry & Hirase, 1904

殻は日本のナタネガイ属では最少の1mmです。光沢があり、^{みつじゅうみやく}鋭い密縦脈と^{さいらみやく}細螺脈をもちます。市内3地点で見つかりましたが、個体数はいずれも1または2個体のみでした。



19. ソメワケダワラ

Gulella bicolor (T. Hutton, 1834)

本調査で本州初確認の外来種(移手段不明)です。軟体部が赤いのが特徴です。台湾やインド原産の外来種で、奄美、沖縄、小笠原、九州の一部まで分布を拡げていました。



20. ナガオカモノアラガイ

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

殻が極めて薄い湿地性の希少種です。既に名古屋市で発見されていますが、一斉調査では初確認でした。水の残る休耕田や水路の水際などエコトーン(推移帯)に棲息します。



21. ヒメオカモノアラガイ

Neosuccinea horticola (Reinhardt, 1877)

殻は薄質半透明、淡黄褐色で体層が大きいのが特徴です。市内の分布は局所的で、各地の発見個体数も少ない状況です。民家の庭園の石の下や河畔などに棲息します。



普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

22. カサキビ

Trochochlamys crenulata (Gude, 1900)

かくちよう
 殻頂がやや円味をおびた円錐形の微小種です。山地性種であるため、市内のような自然度の低い環境ではあまり見られません。市内では棲息地の環境が良好な指標となります。



23. ヒメカサキビ

Trochochlamys subcrenulata (Pilsbry, 1901)

かくけい
 殻径が3mm程度の低円錐形で、周縁がキール状になります。比較的的自然度が高いことを示す指標種でもあり、市内では準絶滅危惧 (NT) に選定されています。



24. オオウエキビ

Trochochlamys fraterna (Pilsbry, 1900)

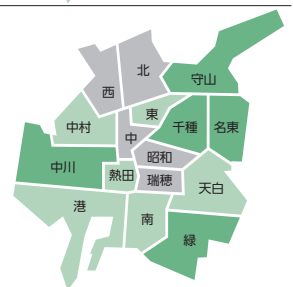
殻は微小で淡黄褐色、円味のある円錐形をしています。体層の周縁角が鈍く、殻底は緩やかな弧状となります。市内では分布がやや東部に偏るようです。



25. ハリマキビ

Parakaliella harimensis (Pilsbry, 1901)

殻は円錐形の螺塔があり、各層は多少脹らみ、縫合は明らかです。10年前に発見された6区からは発見されず、今回、別の5区から発見されています。



26. ヒメハリマキビ

Parakaliella pagoduloides (Gude, 1900)

前種ハリマキビより螺層のふくらみが弱いことで区別できます。市内では発見自体が比較的珍しく、一斉調査では初確認となりました。RDBへの掲載が必要と考えます。



27. ヒゼンキビ

Parakaliella hizenensis (Pilsbry, 1902)

ハリマキビよりも体層が一回り小さく、ヒメハリマキビより丸みを帯びることで区別できます。名古屋市内では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている山地性種です。



28. キビガイ

Gastrodontella stenogyra (A. Adams, 1868)

殻は2mm程度と微小ですが、巻き数が多いので他種との識別は容易です。やや自然度の高いところに出現するような傾向が見られ、市内では東部を中心に分布しています。



普通種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認

29. ヒメベッコウ

Discoconulus sinapidium (Reinhardt, 1877)

殻は非常に小さく2mmに満たない程度。光沢のある黄褐色を呈します。山地から平地まで棲息します。次種ヤクシマヒメベッコウより相対的に小さいことで区別できます。



30. ヤクシマヒメベッコウ

Discoconulus yakuensis (Pilsbry, 1902)

殻は光沢のある黄褐色を呈します。前種ヒメベッコウによく似ていますが、一回り大きく殻径が2.5mm程度になります。ヒメベッコウよりも棲息地がやや山地性と言われます。



31. コシタカシタラ

Coneplecta (Sitalina) circumcincta (Reinhardt, 1883)

殻高2.5mm程度の高い円錐形で、螺層はわずかに膨れ、各層に5～7条の螺条脈があります。カップの上ののったソフトクリームをイメージさせるような輪郭をしています。



32. ウメムラシタラ

Coneplecta (Sitalina) japonica Habe, 1964

前種コシタカシタラに比べると殻高が低く、体層の周縁螺条脈が3本入る点で区別できます。殻を横から眺めるとやや階段状に見えるのが特徴です。準絶滅危惧 (NT) です。



33. タカキビ

Coneplecta praealta (Pilsbry, 1902)

今回の調査で名古屋市初記録となった山地性の注目種です。殻はカサキビに比べて高い円錐形ですが、周縁がカサキビのように角張らず、丸みを帯びる点で区別できます。



34. マルシタラ

Parasitala reinhardti (Pilsbry, 1900)

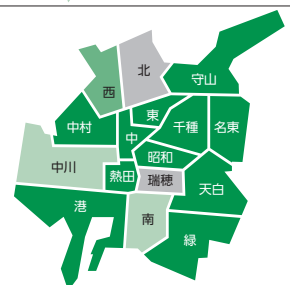
本州～九州、屋久島に分布し、アオキなどの葉裏に付着します。春季から夏季にかけて成貝になると考えられています。胎殻付近に微細な布目彫刻をもちます。



35. ウスイロシタラ

Parasitala pallida (Pilsbry, 1902)

マルシタラによく似ていますが、本種の方がやや螺塔が低く、胎殻付近に微細な布目彫刻をもたないことで区別できます。冬季に最も成長する冬季活動型の陸貝です。



普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

36. ナミヒメベッコウ

Yamatochlamys vasa (Pilsbry & Hirase, 1904)

殻は光沢のある黄褐色または赤褐色で、殻径は5mm程度に達します。螺層は数多く巻いて間隔がやや狭く、螺管はよく膨らみ、縫合は深く、周縁には弱い角があります。



37. オオクラヒメベッコウ

Yamatochlamys lampra (Pilsbry & Hirase, 1904)

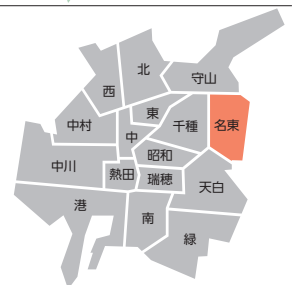
殻は小さく扁平した輪状、殻表は滑らかで半透明な光沢をもつ淡褐色です。殻径4mm程度の微小種。市内では朽ち木の内部や倒木の下側などで比較的良好に見つっています。



38. ヒラベッコウ

Bekkochlamys micrograpta (Pilsbry, 1900)

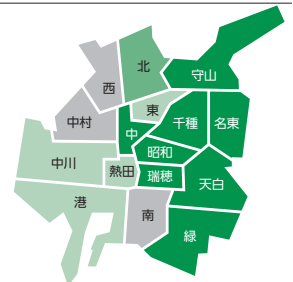
市内のベッコウマイマイ科の中ではやや大きく殻径は9mmを超えることがあります。半透明、淡い黄褐色で光沢が強いのが特徴です。名古屋市内での発見は極めて稀です。



39. ウラジロベッコウ

Urazirochlamys doenitzii (Reinhardt, 1877)

殻は小形で、殻径7mm程度で偏平です。半透明で光沢は強く、殻頂はわずかに膨れます。死滅すると殻の裏側が白くなることからウラジロベッコウと名付けられました。



40. アジアベッコウ

Macrochlamys sp.

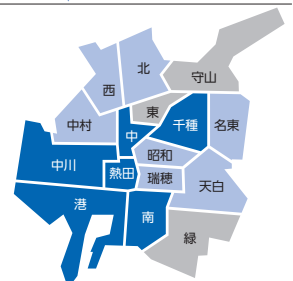
殻径25mmに達する大型のベッコウマイマイ類の外来種です。既に愛知県から発見されていますが、市内での記録は今回の調査が初めてです。今回の発見は全て死殻でした。



41. ヒメコハク

Hawaiia minuscula (Binney, 1840)

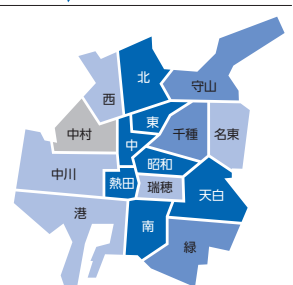
北アメリカのオハイオ州が原産の外来種で、明治時代に日本に移入されたものが全国に分布拡大しました。殻は微小で殻径2mm程度、乳白色で光沢をもたないのが特徴です。



42. コハクガイ

Zonitoides (Zonitoides) arboreus (Say, 1816)

前種と同様に北アメリカ原産の外来種で、北海道から台湾に分布します。殻は黄茶褐色で光沢があります。腐葉土の堆積した場所や庭園の植木鉢の下などにも棲息しています。



普通種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 2012のみ確認 2022のみ確認 2012・2022とも確認

43. チャコウラナメクジ

Lehmannia valentiana (Ferussac, 1822)

ヨーロッパ原産の外来種です。体長は8cm程度に達する中型のナメクジで、黄褐色の体に2個の暗い側帯が入ります。寒冷地適応種なので冷蔵庫でも生きられるようです。



44. コベソマイマイ

Satsuma myomphala (Martens, 1865)

名古屋市に棲息する殻のある陸貝としては殻のサイズが最大で、殻径は5cmにも達することがあります。市内の棲息地は極めて局所的で、準絶滅危惧(NT)に選定されています。



45. ニッポンマイマイ

Satsuma japonica (Pfeiffer, 1847)

殻は円錐形で殻高約20mm、殻径約25mm。名古屋市の個体は周縁角が著しく発達するカドバリニッポンマイマイ型です。山地など比較的自然度の高いところに棲息します。



46. オオケマイマイ

Aegista vulgiva (Schmacker & Boettger, 1890)

殻は平たいレンズ状で3cm程度に達し、周囲に殻皮毛が鱗片状に生えます。やや自然度の高いところに棲息します。市内の棲息地は局所的で準絶滅危惧(NT)に選定されています。



47. カタマメマイマイ

Lepidopisum conospira (Pfeiffer, 1851)

本調査で市内から初めて発見された注目種です。殻高、殻径ともに6mm程度の球形の殻をもちます。河畔林での発見例が多く、愛知県では絶滅危惧II類(VU)に選定されています。



48. マメマイマイ

Aegista commoda (A. Adams, 1868)

殻は次種より小さく、円味のある低円錐形で、黄褐色をしています。エンドウマイマイやエンドウマメマイマイなどと呼ばれ、複数種が含まれる可能性も指摘されています。



49. ヒルゲンドルフマイマイ

Trishoplita hilgendorfi (Kobelt, 1879)

前種より大きくなることで区別できます。殻は黄褐色、殻径12mm程度で、低円錐形で、体層は丸く膨らみます。市内では絶滅危惧IB類(EN)に選定されています。



普通種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 希少種・絶滅危惧種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認
 外来種・国内移入種 ● 2012のみ確認 ● 2022のみ確認 ● 2012・2022とも確認

50. ウスカワマイマイ

Acusta despecta sieboldiana (Pfeiffer, 1850)

殻は薄くて丸く、大きく広い円形の殻口^{かくこう}をもちます。殻高^{かくこう} 20mm、殻径 25mm。在来種ですが、人々の暮らしと共に分布を拡げています。農作物害虫として駆除対象になることがあります。



51. オナジマイマイ

Bradybaena similaris (Ferussac, 1831)

東南アジア原産の外来種です。殻は薄く半透明で広い円錐形。殻高^{かくこう} 12mm、殻径 18mm 程度。ほぼ日本全国に分布を拡げています。都市環境に適応し、農作物を食害します。



52. イセノナミマイマイ

Euhadra eoa communisiformis Kanamaru, 1940

殻は黄土色～茶褐色で焦茶色のバンドが入り、4cm程度に成長します。都市部の公園、神社や民家の庭にも生息します。ヒラマイマイとも呼ばれ、よく見かける普通種です。



53. ナメクジ

Meghimatium bilineatum (Benson, 1842)

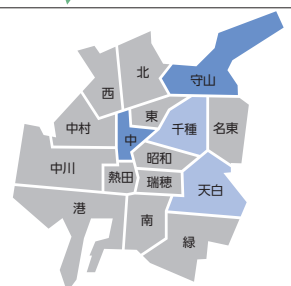
殻はなく、外套膜^{がいとうまく}でおおわれます。体長は40～50mmに達し、淡い灰褐色を呈します。在来種ですが、10年前の調査地点では発見されなかったので増加傾向にあるようです。



54. ナメクジ類

Meghimatium sp. 1

体長は50mm前後で、前種ナメクジ似ていますが、本種は黄褐色～茶褐色をしています。ナメクジの個体変異または異なる外来種の可能性も考えられます。



55. ヤマナメクジ

Meghimatium fruhstorferi (Collinge, 1901)

市内最大の陸貝の仲間で、体色は灰褐色～黒褐色で巨大なものでは15cmを超えることがあります。名前のとおり山地性で、市内では極めて稀にしか見つかりません。



56. ヤマナメクジ類

Meghimatium sp. 2

体長は10cm程度かそれ以上に大きくなります。茶褐色で背面には不鮮明なまだら模様があるものの、前種ヤマナメクジのような縦列斑点が見られないことで区別できます。





57. ミジンヤマタニシ

Nakadaella micron (Pilsbry, 1900)

石灰質の蓋をもち、触角は2本でその付け根に眼があります。市内では準絶滅危惧 (NT) とされますが、本調査やRDBの調査から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更する必要性が示唆されました。



58. ピルスブリムシオイ

Chamalycaeus pilsbryi (Kobelt, 1902)

かくこう 殻口付近背面に虫様管をもつ扁平な円錐形の陸貝です。市内から記録のない種です。今回は市外の周辺地域でも調査を実施したことにより、瀬戸市海上の森で確認されました。



59. ノハラノイシノシタ

Helicodiscus (Hebetodiscus) inermis Baker, 1929

北アメリカ原産の外来種です。10年前の一斉調査では市内6区で発見されましたが、今回は市内からの発見はありませんでした。市内での分布はあまり拡大していないようです。



60. ビロウドマイマイ

Nipponochloritis sp.

殻は20mm程度で丸く、殻の表面に比較的荒い^{しんもうよう}針毛様が発達します。軟体の色は黒っぽく、よく伸長します。未記載種の可能性があるため *Nipponochloritis* sp. としました。



61. コハクオナジマイマイ

Bradybaena pellucida Kuroda & Habe in Habe, 1953

西日本に分布し、愛知県の個体は国内外来種です。ウスカワマイマイより更に殻が薄いのが特徴です。市内の記録はありますが、一斉調査では市外でのみ見つかりました。



62. クチベニマイマイ

Euhadra amaliae (Kobelt, 1875)

かくけい 殻径26~37mmで淡い黄白色の中形の殻をもちます。がいしん 外唇は淡紅色で内部が紫紅色を呈するのが名前の由来です。軟体の背部も白色です。名古屋市市内には棲息していません。



4. 同定資料

●.....普通種
●.....希少種・絶滅危惧種
●.....外来種・国内移入種

ヤマタニシ



ミジンヤマタニシ



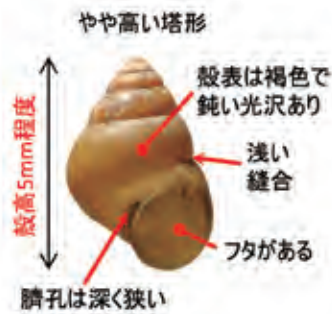
アズキガイ



ヒダリマキゴマガイ



ウスイロオカチグサ



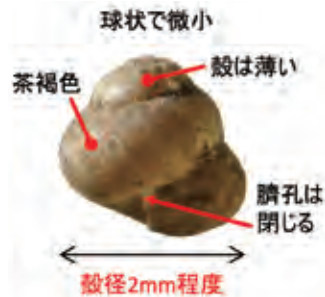
ニホンケシガイ



ミジンマイマイ



マルナタネガイ



シリオレギセル



ヒクギセル



ナミギセル



ナミコギセル



-普通種
-希少種・絶滅危惧種
-外来種・国内移入種

トクサオカチョウジガイ



ホソオカチョウジガイ



オカチョウジガイ



サツマオカチョウジガイ



タワラガイ



ナタネガイ



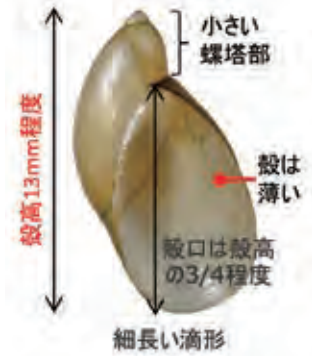
ミジンナタネ



ノハラノイシノシタ



ナガオカモアラガイ



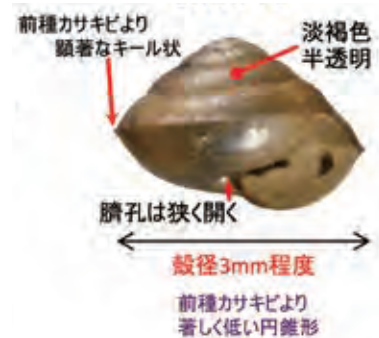
ヒメオカモアラガイ



カサキビ



ヒメカサキビ



-普通種
-希少種・絶滅危惧種
-外来種・国内移入種

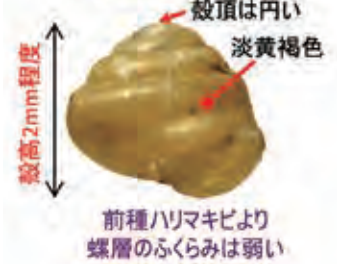
オオウエキビ



ハリマキビ



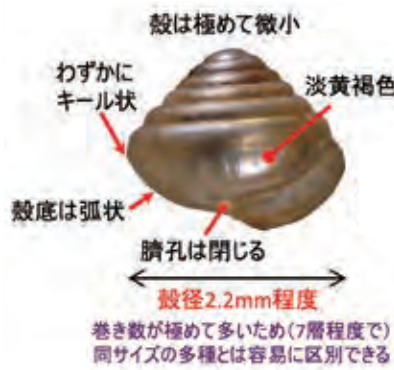
ヒメハリマキビ



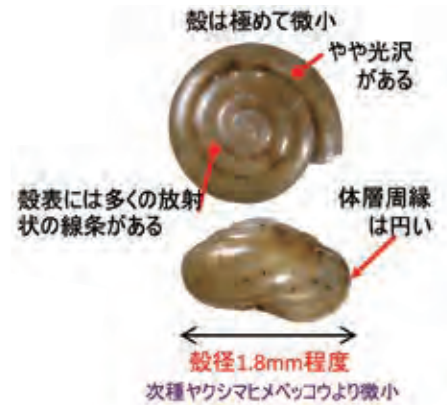
ヒゼンキビ



キビガイ



ヒメベッコウ



ヤクシマヒメベッコウ



シロヒメベッコウ類似種



コシタカシタラ



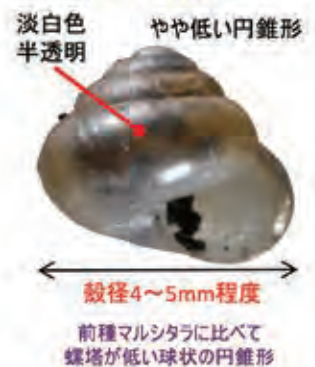
ウメムラシタラ



マルシタラ

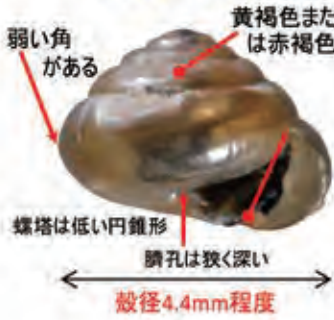


ウスイロシタラ

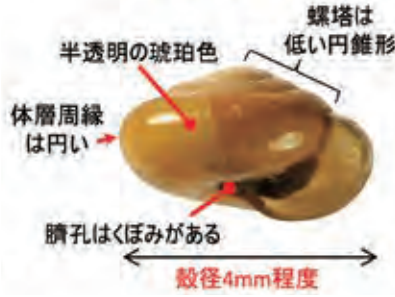


-普通種
-希少種・絶滅危惧種
-外来種・国内移入種

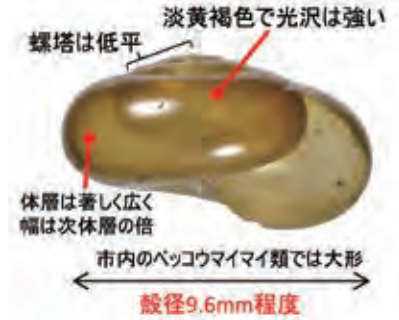
ナミヒメベッコウ



オオクラヒメベッコウ



ヒラベッコウ



ウラジロベッコウ



ヒメコハク



コハクガイ



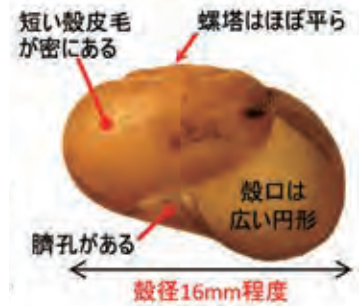
コベソマイマイ



ニッポンマイマイ



ビロウドマイマイ属の一種



オオケマイマイ



マメマイマイ



ヒルゲンドルフマイマイ



-普通種
-希少種・絶滅危惧種
-外来種・国内移入種

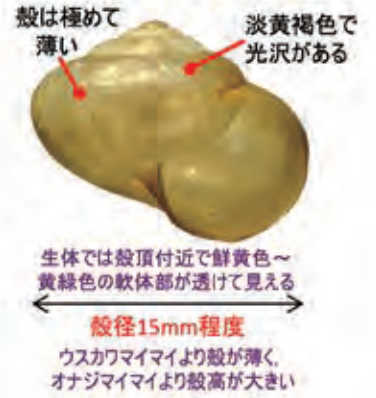
ウスカワマイマイ



オナジマイマイ



コハクオナジマイマイ



イセノナミマイマイ



ナメクジ



ナメクジ属の一種



ノハラナメクジ



チャコウラナメクジ



コウラナメクジ(キイロナメクジ)



5. 調査後のアンケート

5-1 調査に対する満足度

リーダー等を除く参加者に対して、調査後にアンケートへの回答をお願いしました。連携団体を含め574人の参加者から445の回答をいただきました。

調査に対して約60%の人が「楽しかった」と答え、「やや楽しかった」を含めると90%になりました。ほぼすべての参加者に陸貝の調査を楽しんでいただけたようです。なごビオの調査地点では「楽しかった」人が約80%に達しました。

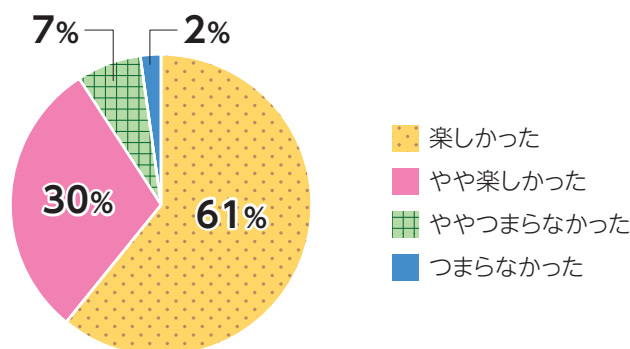


図28. 満足度

5-2 参加者について

なごビオの調査地点では、参加者の年代及び公募方法についてもお尋ねしました。

参加者のうち最も多かったのは10代で、そのうち小学生と大学生がともに約40%を占めました。次いで、70代以上、50代、40代と続きます。他都市の保全団体でも70代以上の参加者が多く、高齢者は生きものに対する関心が高いと言えるかもしれません。

参加者を公募方法別に分類すると、今回は友人・知人を介して知ったという人が33%で最多でした。ついで、その他となりますが、なごビオ会員や個々の活動団体を通じて知ったという人が多かったようです。広報なごやとチラシという紙媒体の割合が昨年よりも減少し、一方でウェブサイトの割合は増加しました。

今後も様々な方法で広報に努め、多くの方に参加していただけるよう取り組んでまいります。

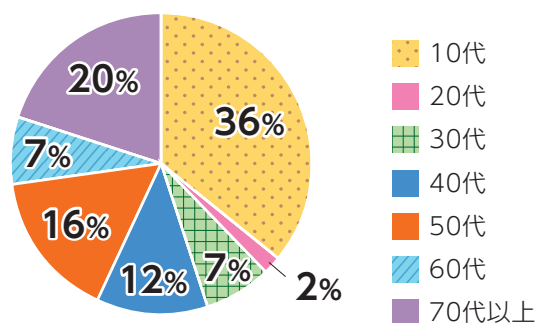


図29. 参加者年代

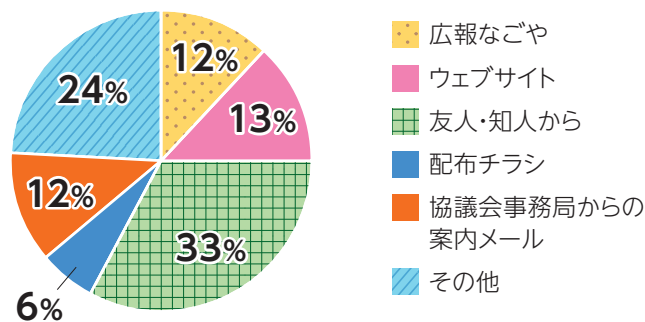


図30. 公募方法





5-3 参加者の声

アンケートでは、「楽しかったこと、面白かったこと」をお聞きしました。陸貝は予想以上に小さく、見つけるのが大変だったようですが、見つかったときには達成感を感じられたようです。また、^{ふるい}篩にかけて見つけるという方法も珍しかったようです。

- ・ 陸貝と聞いてカタツムリやナメクジくらいしか思いつかなかったが、土の中に予想以上に小さい巻貝がいて驚いた
- ・ 想像していた以上にカタツムリを発見できたこと、様々な種類がいることを学んだこと、思わぬ場所に生息していたこと
- ・ 色々な色・形・模様・種類がありとても興味深かった
- ・ 採集する場所が少し違うだけで、カタツムリの種類や量が違うことが分かって面白かった
- ・ ふるいで小さいのを探して発見することが楽しかった
- ・ 細かい腐葉土の中から極小の貝類が見えたときは満足感があつた
- ・ 日頃気づかなかつた所に多くの生きものがあることに気づけたこと
- ・ 宝探しみたいで楽しかった

また、「ご意見・ご感想・改善点」について自由に記載していただき、以下のようなご意見をいただきました。

- ・ 市民参加のこういう企画はとても良いと思う
- ・ 調査方法や採取したものの取り扱いが理解しやすく、説明もすごく分かりやすかつた
- ・ 有意義な資料になると思うので、これからも継続してほしい
- ・ また機会があれば参加しようと思う、ありがとうございました
- ・ このような子供も楽しめるイベントを今後も続けてほしい
- ・ 身近な公園で調査に参加できてよかつた
- ・ 半日では物足りない楽しさだつた、小さな世界をじーっと見て楽しかつた、次回は丸1日をお願いします
- ・ 毎年毎年の積み重ねで生態系の把握ができるので、これからも開催して下さい

以下のようなご指摘もいただきました。今後も、皆さんに楽しんでいただけるような調査となるように努めてまいります。

- ・ 事前に資料をデータでもらえると嬉しい
- ・ 服装や靴についてもう少しアドバイスがあるとよかつた（長靴など）
- ・ 必要な道具についてもっと詳しく事前にメールで伺いたかつた
- ・ 時間を延ばしてほしい
- ・ 「陸貝」の参加が少ないようだ、カタツムリやデンデンムシとか名称の工夫があつてもよい



6. 活動アルバム



千種区 茶屋ヶ坂公園



千種区 城山八幡宮



千種区 東山の森(うるおいの森)



千種区 千種公園



千種区 東山の森(いのちの森)



千種区 東山の森(くらしの森)



東区 木ヶ崎公園・長母寺



千種区 東山の森(へいわの森)



千種区 東山の森(ふれあいの森)



東区 徳川園



中区 久屋大通庭園フラリエ



千種区 名古屋大学東山キャンパス



昭和区 鶴舞公園



中区 名古屋城外堀



瑞穂区 山崎川(あゆちの水)



昭和区 興正寺公園



瑞穂区 山崎川(山下橋周辺)



熱田区 高座結御子神社



熱田区 熱田神宮公園



熱田区 白鳥公園



熱田区 神宮東公園



北区 名城公園



港区 戸田川緑地



中川区 富田公園



南区 呼続公園



港区 荒子川公園



守山区 雨池公園



南区 大江川緑地



守山区 八竜緑地



守山区 竜泉寺



守山区 才井戸流



守山区 東谷山フルーツパーク



守山区 東谷山



守山区 才井戸流



守山区 小幡緑地(本園)



緑区 大高緑地(花木園)



緑区 大高緑地(管理事務所周辺)



緑区 みどりが丘公園



緑区 細根公園



緑区 鷺津岩公園



名東区 明德公園



名東区 猪高緑地(塚ノ杵池周辺)



名東区 猪高緑地(すり鉢池周辺)



名東区 牧野ヶ池緑地(東部)



名東区 牧野ヶ池緑地(西部)



天白区 相生山緑地(オアシスの森)



天白区 相生山緑地(南部)



天白区 荒池緑地



天白区 東山公園テニスセンター



天白区 天白溪下池公園(大坪小学校)



守山区 西城小学校



稲沢市 サリオパーク祖父江

6. 活動アルバム



緑区 鳴海小学校(6年1組)



緑区 鳴海小学校(6年2組)



緑区 鳴海小学校(6年3組)



中村区 庄内川河川敷(名城大学附属高校)



千種区 名古屋経済大学市邨高校



長久手市 モリコロパーク



瀬戸市 海上の森



豊明市 二村山



犬山市 犬山水生生物園



小牧市 尾張広域緑道フレッシュパーク



尾張旭市 新居町寺田の里山
(名古屋産業大学)

参加者・参加団体一覧 (敬称略・順不同)

 以下の方々にご参加いただきました。

浅井昭枝、浅井聡司、安部琴子、阿部五朗、阿部花井、荒谷典子、飯野道彦、壹岐三知子、石川進一朗、石川登志子、石樽純子、石黒鎌三、石田由吉、石原則義、磯村照子、市橋和宜、伊藤章子、伊藤隆之、伊藤昌子、井土清司、稲川みき子、井上恵介、井上隼輝、井上みつる、今尾由美子、井村龍之祐、岩田育純、岩田うめ子、上坂晶子、上田健人、上田理香、上野帆遥、宇地原栄吉、宇都和久、宇野総一、梅本洋子、江口説也、江ノ本伸一、大石里美、大関弘、太田勝子、大主順一、大野真、大橋麻美子、大橋惇平、大矢晃、大矢美紀、大矢芳樹、岡崎真理子、岡島栄子、岡村穰、小倉洋子、小倉大和、刑部芳子、小澤佐智子、小澤光樹、小澤かな、押谷則子、葛西圭悟、葛西美江、檉野悦子、鹿住坦、数本庸介、数本健太、数本あんな、数本康仁、片岡篤実、加藤敦子、加藤武彦、蟹江明美、神山良平、神山優真、川瀬基弘、川本洋敬、川本竜慈、川本芙友音、キキ・アザム、鬼頭洋子、木村雄二、熊澤慶伯、久村三重子、倉内晟仁、栗野直樹、黒柳佳代、桑山高史、桑山千恵、桑山双葉、金剛和香、近藤和子、近藤記巳子、近藤国夫、榊原靖、坂口由美子、坂梨豪彦、坂本講輔、佐久間淑章、櫻谷保之、佐藤利行、サハト、柴田悠暉、白岩紘子、白岩一隼、白岩隼空、白田きみ、新山雅一、杉浦健仁、鈴木恵梨子、鈴木栄祐、鈴木曹祐、鈴木仁和、鈴木文子、鈴木百代、高岡留美、高木和彦、高木信雄、瀧川正子、滝田久憲、田京弘一、武田和樹、竹田克久、竹本清子、立浪辰代、田中健夫、田中雅子、田中成明、田中友啓、谷幹雄、田畑恭子、田幡真一郎、茶原真佐子、中条光平、中条素子、柘植実、寺澤とも子、寺島君子、戸崎智文、鳥谷幸子、仲井進、中島典子、中島匡貴、中島彩瑛、中島詩乃、中島淳子、中島直樹、中島茉里、中島竜也、中島稜大、永田直三、中野陸、中村恵美子、長元楓、永森洋一、西部めぐみ、丹羽愛子、芳賀裕子、萩原正弥、長谷川直子、長谷川博樹、羽田恵子、畠山内枝、波多野弘、服部ともみ、服部航大、服部峻也、服部みちよ、巾賢治、林時三、早野則子、半澤はるか、半澤悠司、伴知幾、深田仁、吹上康代、福井清、福田利夫、房村拓矢、房村由里奈、房村璃乃花、房村瑠羽花、藤岡嶺子、船橋泰彦、舟橋里帆、古川文子、古米清子、古田晃司、古田大佑、古田拓也、古田弘英、星克巳、堀田裕美、堀田翔太、細江初奈、細江真澄、堀千鶴、堀桃香、前野圭子、前野朴春、牧野巨樹、牧野寛生、松下稔、松下静江、松田泰蔵、松田理沙、松田大河、松田清花、松永寿里、松原裕隆、三浦東亜男、水谷謙二、水谷康一、水野忠、三宅皇輝、三宅さくら、三宅春花、三宅旦将、宮下幸三、宮嶋愛子、三好宣雄、虫鹿雅子、武藤紀子、ムハンマド・ヌルファイク・ヒバトゥラ、村中優仁、森悟、森新、森友美、森マリ、森光宏、森川晴つみ、守谷茂樹、安井敏彦、安井弘、山口長寿、山田祥夫、山田やえ子、山田佑子、山田良彦、山田梨央、山田律子、山根かをり、山本雅博、山本佑紀、鎗居俊夫、横井敦史、横井利文、横山悠理、吉田光良、吉安尚久、脇田剛、渡辺慈子、渡辺大起



 連携団体の調査地点では以下の方々にご参加いただきました。

【名古屋市理科教育研究会】

北陵中学校 宇佐美宏幸、竹内博子、生徒延べ12人／西城小学校 小林哲、小泉敦、辻佳子、児童・保護者12人／鳴海小学校 川野祐二、6年生99人／大坪小学校 本多拓実、亀澤美和子、5年生58人

【ユース】

名古屋経済大学市邨高校 佐藤豊、生徒92人／名城大学附属高校 吉川靖浩、三輪温子、生徒30人
愛知県立一宮高校 原いずみ、伊藤奈央子、生徒15人

【他都市団体】

NPO 法人海上の森の会 青山邦彦、青山智子、石川明博、源田孝、田中英嗣、細川小百合、馬宮孝好

NPO 法人もりの学舎自然学校 池田さつき、池田慎之介、池田めい、大塚梓、大塚さき、木下和弥、中川かおる、馬場容子、水谷央、守安悠子、柳井谷ふみこ、柳井谷一輝、柳井谷和奏、山田明広

二村山豊かな里山作りの会 浅野守彦、大島初美、大島武幸、亀山英明、北村良一、北村幸代、近藤佳樹、戸塚律子、服部聡士、原田秀子、古橋司宣、三好善一

公益財団法人愛知県都市整備協会 サカモトヒロシゲ一家、野口美博、馬渡康弘、ヨシダマサカズ一家

岩間造園(株)・一般財団法人公園財団 荒川恵介、小田倫之、近藤賢司、辻泰広、野口章夫、森川了平

NPO 法人犬山里山学研究所 岩井勲、川尻喜美子、倉重広子、近藤智、近藤富士夫、斉木加代子、高木和男、高木加代子、滝浩史、沼田浩、長谷川廣春、平野恵子、松尾眞樹、箕浦仁美、武藤賢之輔、柳谷啓子、山田和利、若杉順子、渡辺孝雄、渡辺光子

名古屋産業大学長谷川ゼミ 浅井大地、今西亮力、浦田蓮、黄志浩、大濱勇人、岡本直也、袴田芳生、長谷川泰洋、水野良

 また、以下の団体にご参加をいただきました。

【なごビオ会員】

相生山緑地自然観察会、愛知守山自然の会、雨池ホタルの会、大高緑地湿地の会、

日本野鳥の会愛知県支部(尾張野鳥の会)、白玉星草と八丁トンボを守る会、

中志段味の自然を次世代に伝える会、名古屋昆虫同好会、名古屋自然観察会、

名古屋市立大学理学研究科附属生物多様性研究センター、

NPO 法人なごや東山の森づくりの会、花水緑の会、名東自然倶楽部、もりづくり会議、

守山リス研究会、山崎川グリーンマップ

【なごやの森づくりパートナーシップ連絡会会員】

水源の森と八竜湿地を守る会

【その他の団体】

公益財団法人名古屋市みどりの協会、細根公園特定愛護会、鶴舞公園整備運営事業共同事業体、

(株)サンゲツ、名古屋大学生物研究会、名古屋市青少年参画フォーラム



調査に参加いただいた市民・団体の皆様、ご協力ありがとうございました。



なごや生きもの一斉調査2022 ～陸貝編～ 調査結果報告書

発行：なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 TEL:052-831-8104 FAX:052-839-1695

監修・執筆 | 川瀬基弘(鳳来寺山自然科学博物館学術委員)

編集 | なごや生物多様性保全活動協議会 事務局



2023年4月発行